

市町村名	北中城村
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	あやかりの杜滞在型施設活用事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24~28年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	長期滞在型のある宿泊施設、キャンプ場等がある「あやかりの杜」を活用した、野外活動や沖縄の自然や伝統文化の学習等を実施する。
------	---

実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	2,000	5,477	5,000	5,000	
	(b) 予算現額	2,000	5,477	5,000	5,000	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)	2,000	5,477	5,000	5,000	
	B. 執行済額	2,000	5,028	4,991	4,993	
	うち交付金充当額	1,600	4,022	3,992	3,994	
	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	91.8%	99.8%	99.9%	
予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
		体験交流事業:15事業	目標 (2事業)	(6事業)	(6事業)
	実績	2事業	6事業	6事業	17事業
達成状況説明	平成27年度は、施設を活用した事業に対する需要を鑑み、当初の予定より2事業追加し17事業を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
		目標 ()	(150人)	(150人)	(500人)	()
		実績	273人	512人	495人	
進捗状況説明	沖縄の伝統工芸事業及び野外キャンプ場を活用した体験交流事業の実施は4年目にあたり、今年度は「親子シーサー作り」等の伝統文化事業に限らず、体験交流事業として開催した「親子焼き菓子教室」「フラワーアレンジメント教室」等にも多くの応募があったことから、今年度設定した成果目標に対し達成率が99.0%となり、概ね達成することができた。加えて、この活動が県内新聞、情報誌にも取り上げられ、ワークショップ後の施設利用及び来館者数の増加がみられた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を開催したことにより、対外的に北中城村あやかりの杜を訪れる契機を設けることができたため、施設・キャンプ場の村外・県外利用者が増加した。 ・「地産地消」をコンセプトとして挙げていた焼き菓子教室では、村内のコーヒー店の協力を仰いだりと視点を変えて開催した。受講者からは、様々な村の食材の紹介と講座の回数を増やしてほしいとの要望があった。 ・村花の紹介を目的として、「ラン」のフラワーアレンジメントを開催したが、ラン農家が少なく材料調達に苦労した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の改善点で挙げられた「事業の精査と募集人数の増加」を行ったが、予想を大幅に超える応募があったため、来年度も引き続き調整を行い、村外からの北中城村に対する興味・関心の拡大を図っていく。 ・北中城村内で栽培された野菜等の食材を活用するためにも、村内で農業生産している方や事業を行っている企業と交流を深め、食材の情報の収集に努めて「焼き菓子教室」等の事業内容を充実させたい。 ・村花である「ラン」の栽培方法のワークショップのみならず、北中城村ラン同好会と協力して施設内展示等を行い、幅広く紹介していく。

今後の取り組み方針

・村民の講師への起用は基より、事業者・農業生産者との交流を深め、様々な観点から北中城村ならではの特色あるプログラムを実施する。また、施設内に生息する蝶(オオゴマダラ)の観察やアジサイ等の植栽活動を行い、「あやかりの杜」全体を用いた企画を考えていく。

・ホームページの更新を随時行い、情報発信に努める。また、最近では県外のみならず海外からもホームページによる問合せができてきているため、海外旅行者向けの案内掲示にも対応していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,993	4,993	3,994	999	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・受託事業者は随意契約であるが、施設の指定管理者であり、当該施設に熟知していることを勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・予算規模及び費目・使途については、事業目的に即し適正であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	歴史文化散策路ネットワーク整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24年度～平成29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり	
事業内容	誘客を図るため、世界遺産「中城城跡」を核として、村内にある歴史文化遺産の活用と、村の魅力を発信するとともに、徒歩で周遊できる散策遊歩道整備を実施する。散策遊歩道整備の実施箇所は、重点地区となっている喜舎場・仲順地区とする。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,179	17,109	28,067	30,468	
		(b) 予算現額	10,179	17,109	28,067	28,220	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 2,248	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)		10,179	17,109	28,067	28,220	
	B. 執行済額		9,756	14,073	23,800	28,220	
	うち交付金充当額		7,804	11,258	19,040	22,576	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		95.8%	82.3%	84.8%	100.0%	
予算の状況の説明		当初想定していた予算30,468千円の工事費、委託費(現場技術業務)は、里道整備付属工事の見直しにより減額となった。また、来年度工事において、早期の工事着工のための予備調査を新たに追加実施し、結果的に2,248千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	散策路案内カラー舗装(L=1,300m、572㎡)	目標	(散策路案内カラー舗装)	(散策路案内カラー舗装 L=1,300m、572㎡)	()	()	
		実績	散策路案内カラー舗装	散策路案内カラー舗装 L=249.5m、74.9m ²			
	里道整備の実施(L=128m、188㎡)	目標	(里道整備の実施)	(里道整備の実施 L=128m、188㎡)	()	()	
実績		里道整備の実施	里道整備の実施 L=128m、192㎡				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 散策路案内カラー舗装については当初、残りの全区間について実施予定であったが、残りの里道整備が完了できないため、喜舎場地区を重点的に整備するべきと判断し、残りの散策路カラー舗装は里道整備ごとを実施する計画とした。そのため、目標値に対する実績が低くなっている。 「喜舎場・仲順」地区において、歴史的文化財等への道案内としてカラー舗装整備、里道整備(歩行通路)を実施し、初めてその地を訪れる観光客等道案内の環境整備(喜舎場地区)が図られた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・喜舎場地区の散策が可能となり徒歩で周遊できる環境基盤の整備	目標	()	(「喜舎場・仲順」地区の第1期整備工事の完了)	(喜舎場地区の散策が可能となり徒歩で周遊できる環境基盤の整備)	()	()
		実績		(「喜舎場・仲順」地区の第1期整備工事の完了)	(喜舎場地区の散策が可能となり徒歩で周遊できる環境基盤整備工事の完了)		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 「喜舎場・仲順」地区における散策路整備については、歴史的文化財等へアクセスする案内カラー舗装、里道整備であり、今年度において、第2期工事を完了し、当該地区に所在する歴史的文化的文化財等を活かした地域資源の活用を図るきっかけづくりを行うことができた。 次年度の第3期工事については、残りの里道整備を実施する予定であり、魅力ある散策路整備に向けた取組を推進していく。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 散策路整備として里道整備及び昨年度から継続の歴史文化財等へのアクセス案内カラー舗装を行い、喜舎場地区においては散策路周回が可能となったが、案内板等の設置は未設置の箇所もある。また、スマートフォン・PCタブレットを活用したAR(現実仮想)技術の導入は未導入である。 ホームページへの掲載などのPRにより、村外からの来訪者や外国人観光客の姿も見かけるようになっているが、より広く周知するためには、情報発信がまだまだ課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある散策路として、健康増進事業や文化財活用事業、歴史文化継承事業などと連携し、マスコミ等の活用を促しながら、観光客などへ向けた対外的な情報発信を行う必要がある。 AR(現実仮想)の導入基盤はできていることから、当該散策路における文化財の所在情報や、ロケーションビューポイントなどを設定し、散策しながら楽しめるソフト整備が必要であり、整備状況をみながら整備が必要である。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 喜舎場・仲順地区における残りの散策路整備(里道整備)を推進し、魅力ある散策路整備完了に向けて継続して取り組む。 当該地区への観光客誘客に向け、他分野(健康・文化・教育等)における事業と連携し、散策路整備事業の相乗効果を図る。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	28,220	28,220	22,576	5,644	0
<pre> graph LR A[北中城村 28,220千円] --> B[委託料 9,558千円] A --> C[工事費 18,662千円] B --> D[株式会社 永技研 4,331千円] B --> E[株式会社 永技研 5,227千円] C --> F[有限会社 日迎建設 18,662千円] D --- G["(喜舎場・仲順地区散策路整備工事に かかる斜面安定解析業務)"] E --- H["(喜舎場・仲順地区散策路整備工事に かかる現場技術業務)"] F --- I["(喜舎場・仲順地区散策路整備工事)"] </pre>					

資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は指名競争入札方式により選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%程度であり、適切な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

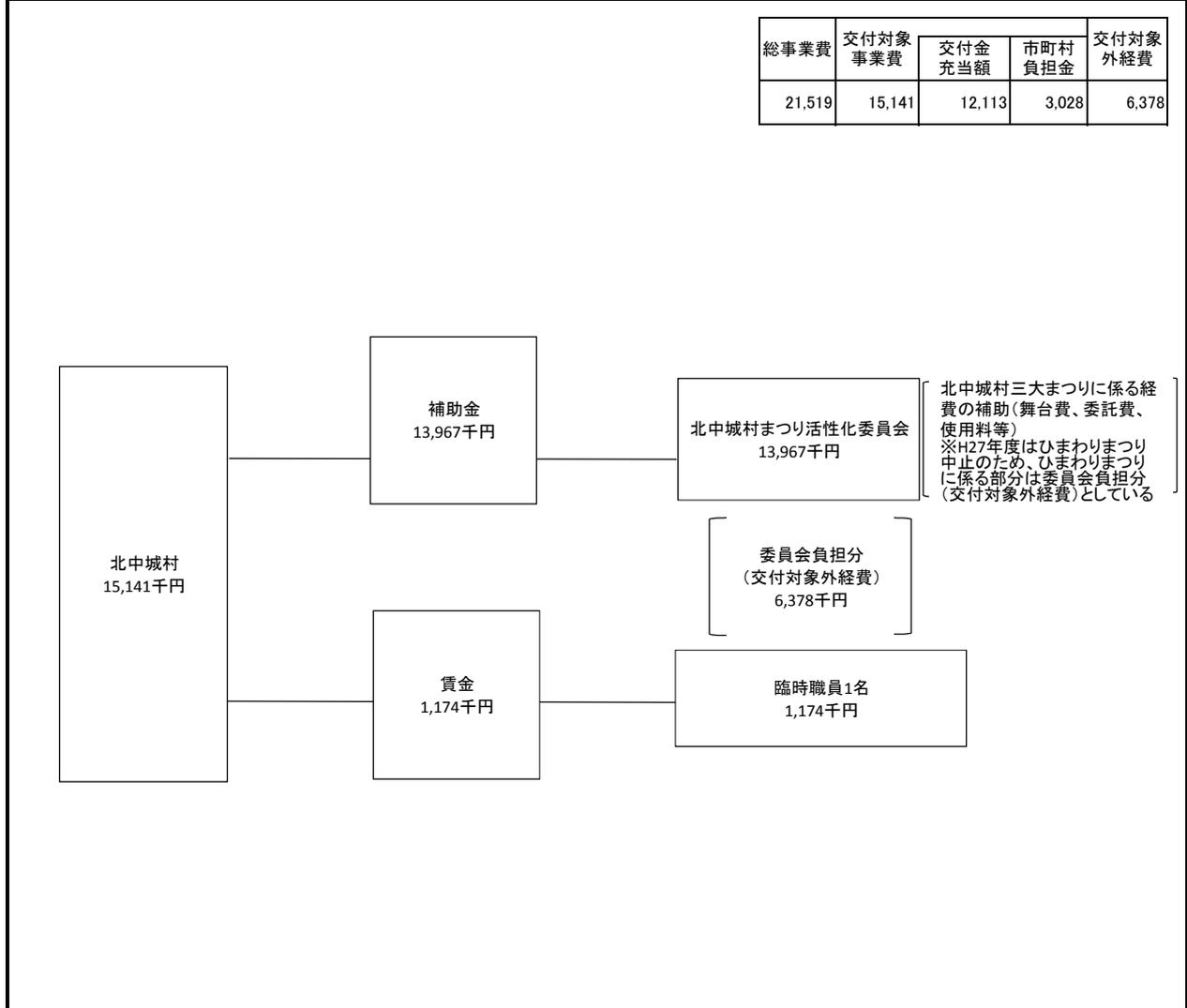
市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	北中城まつり活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-オ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～平成33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	産業間連携の強化	
事業内容	県内外の誘客及び村民コミュニケーション醸成を図るため、夏場の祭りとして、沖縄の伝統文化である「青年エイサー」、秋場の「北中城まつり」の開催、そして冬場の祭りとして、沖縄の温暖な気候を活かした日本一早い「ひまわりまつりin北中城」を開催する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,072	19,141	18,817	18,817	
		(b) 予算現額	12,392	19,427	19,460	18,000	
		(c) 増減額 (b-a)	320	286	643	▲ 817	
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)		12,392	19,427	19,460	18,000	
	B. 執行済額		12,225	19,427	19,460	15,141	
	うち交付金充当額		9,779	15,542	15,568	12,113	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		98.7%	100.0%	100.0%	84.1%	
予算の状況の説明		三大まつりのひとつである「ひまわりまつりIN北中城」が天候等の影響により中止となったことにより、補助金及び賃金にかかる不用額2,859千円が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	まつりの実施:3回	目標	(3回)	(3回)	(3回)	(3回)	
		実績	3回	3回	3回	2回	
	まつり開催日数:19日	目標	(20日)	(19日)	(19日)	(19日)	
実績		20日	19日	19日	3日		
達成状況説明	青年エイサーまつり(9/13)、北中城しおさいまつり(11/15、16)の合計3日間のまつりを開催した。しかし、真冬の「ひまわりまつりIN北中城」は暖冬等の影響により想定より早く花が枯れてしまい、中止となったため開催日数が大幅に減となってしまった。						
成果目標(指標)及び進捗状況		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	三大祭りにおける来場者数:11.5万人(H25:11.1万人)	目標	()	(11万人)	(11万人)	(11.5万人)	()
		実績		11.1万人	6.2万人	2.5万人	
	地元産業事業者及び村内団体出店参画数:60事業所(H25:51事業所及び団体)	目標	()	(40団体)	(40団体)	(60団体)	()
		実績		38団体	47団体	32団体	
県外ツアー受け入れ:1社以上	目標	()	()	()	(1社)	()	
	実績				0社		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 青年エイサーまつりにおいては、会場と村内の大型商業施設との間をシャトルバスで結ぶことで、会場への効果的な誘客を図ることができた。 北中城しおさいまつりは第30回の記念に過去使用されていた「しおさい」という名称を復活させ、また、記念プログラムとして村内保育園児、障害者地域活動支援センター利用者等とのオリジナルダンスもおこない、各種団体を巻き込み、まつりを盛り上げることができた。 「ひまわりまつりIN北中城」が中止になったことにより、来場者数、地元産業事業者等のまつりへの参画数、ツアー受け入れ数が目標達成に至らなかった。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・村内に県内最大級の大型商業施設が開店し、村内への人の流れが大きく変化していることから、青年エイサーまつりにおいて、試験的に大型商業施設と会場との間にシャトルバスを巡回させたところ、効果的な誘客を図ることができた。 ・北中城しおさいまつりにおいて、駐車場不足改善のため、近隣にある大型商業施設の所有する敷地を臨時駐車場として借用し、活用することができた。 ・ひまわりまつりIN北中城において、村をあげてまつりを開催するため、ひまわり畑の石拾い及び種まきを各種団体を巻き込んで行う事ができたが、暖冬等の影響により花が想定より早く枯れてしまい中止となってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型商業施設来店者へのまつりPRIは勿論のこと、直接会場へ足を運んでいただく仕組みづくりが必要である。 ・青年エイサーまつり、北中城しおさいまつり共に駐車場不足が課題であるため、今後もシャトルバスの本数・ルートの改善及び近隣施設等との連携が必要である。 ・ひまわりまつりIN北中城について、今回開催した種まきを定着させ、各種団体をうまく巻き込みながら村をあげてまつり開催をする必要がある。 ・ひまわりの開花時期については、天候に左右される面もあるが、実効性のある対応策を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・青年エイサーまつりにおいて実施したシャトルバス(大型商業施設⇄会場)を北中城しおさいまつりにも導入することで誘客を図る。
 ・青年エイサーまつり、北中城しおさいまつりの駐車場不足対応のため、今一度近隣施設等に活用できる場所がないか確認し、駐車場の確保を図る。
 ・ひまわりまつりIN北中城について、種まきを数段階に分けて行うことで開花時期を調整する。また、開花状況を見ながら開催時期を臨機応変に調整する。加えて、植え付け面積を約1万㎡から約1万4,000㎡へ規模を拡大する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・村内各種団体の長などで構成されている「まつり活性化委員会」を補助機関とすることで、各団体との連携もとりやすく、地域コミュニティの活性化にも繋がっている。選定は妥当であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模について、ひまわりまつり中止に伴い未執行残額が生じてしまったが、ひまわりまつりを開催した場合には、適正に執行できたものと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担について、対象経費としてそぐわない経費(食料費等)を委員会負担としており、妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、使途について、支出等に関する書類により検査をおこなっており、適正であった。

市町村名							
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	菟道・大城湧水群周辺環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	平成の名水百選に選ばれた湧水群について、新たな観光資源としての活用を目指し、水質の調査や、世界遺産「中城城跡」のすぐ近くに点在するという環境を活かし、湧水群周辺整備を実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		7,230	16,000	17,162	11,000	
			7,230	16,000	17,162	8,000	
			0	0	0	▲ 3,000	
			-	-	-	-	
		6,489	14,910	13,932	7,182		
	B. 執行済額 うち交付金充当額	5,191	11,928	11,145	5,745		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	89.8%	93.2%	81.2%	89.8%		
	予算の状況の説明	不要額818千円は、一部業務の仕様変更と入札執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	亀裂箇所補修工法検討調査	目標	()	(補修工法検討調査)	()	()	
		実績			補修工法検討調査の実施		
雨水地下浸透施設の整備 (住宅:5件 公共:1件)	目標	(湧水保全地区の雨水浸透方法の検討)	(住宅:5件 公共:1件)	()	()		
	実績	湧水保全地区の実設計の実施	住宅:4件 公共:0件				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 雨水地下浸透施設の整備について、当該地域住民の協力のもと、4件において雨水浸透施設の試験施工整備を行うことができたが、残り1件については、家主からの要望により取りやめとなった。 また、公共施設内の整備については、モデル住宅の検証結果をふまえた試験施工を行うことで、より正確な測定ができるため、次年度に実施することとなった。 崩落が起きている大城イリヌカーの補修工法について、新たな観光資源となるような工法も含め3つの案に絞ることができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	大城イリヌカー補修工法の決定	目標	()	(補修工法の決定)	()	()	()
		実績			基本設計の策定		
	井戸の湧水量確保に向けた雨水地下浸透施設整備(公共施設1件、住宅地5件)	目標	()	(公共施設内:1件 住宅地:5件)	()	()	()
実績				公共施設:0件 住宅地:4件			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> モデル住宅に設置した各浸透施設の浸透量については、4種類の浸透施設の試験施工を行うことにより、それぞれの住宅における基準値(1時間あたりの浸透量)を把握できた。 大城イリヌカーの隧道内調査及び詳細な地形測量により、亀裂箇所及び崩落危険箇所の範囲が把握することができ、補修に向けた基本設計を策定することができた。 						

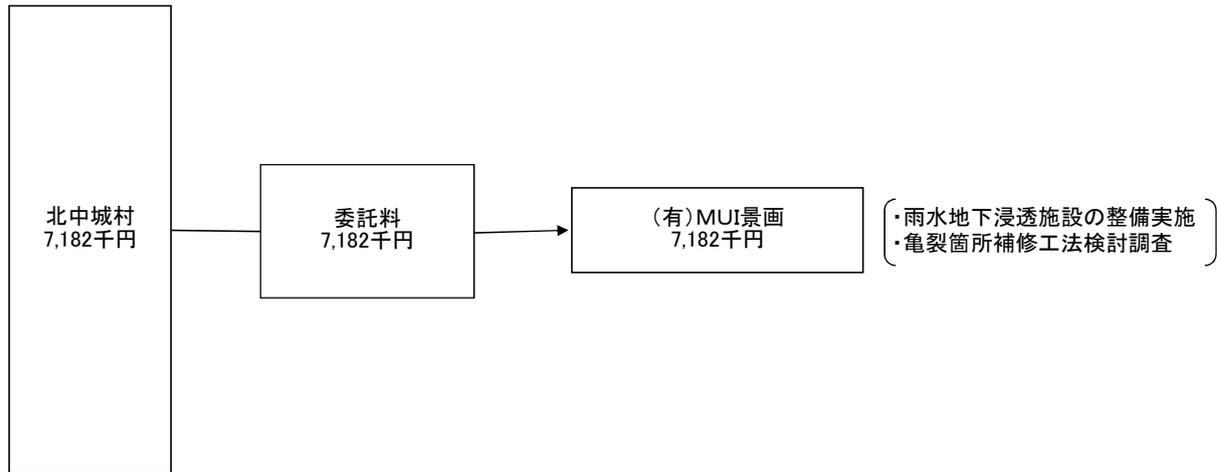
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 試験施工した湧水再生施設の一部で枅内に落ち葉やゴミ等が容易にたまってしまい浸透能が落ちるため、維持管理について課題がある。 大城イリヌカーの補修については、文化財の復元性や改変の観点から、文化財審議委員会との調整や、観光資源の活用の側面から検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 湧水再生施設を管理しやすくする為に捕獲用の網を設置する等、維持管理の方法を検討する必要がある。 大城イリヌカーの補修の際、湧水が流れる隧道内を見れるようにするなど、観光資源として活用と文化財保存の両面から検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・平成27年度に設置した雨水浸透施設が、一般家庭に広く普及できるよう実証実験を継続し、改善に向けた検証に取り組む。
 ・大城イリヌカーの改修実施設計の策定と、隣接する公園・広場の再整備を検討し、観光客が来訪しやすくなるような場所作りに取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
7,182	7,182	5,745	1,437	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託業者は指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 予算規模は業者見積により設定しており適正の規模であった。 費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	地域活性化キャラクター活用事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ			
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25～平成33年度	市場特性に対応した誘客活動の展開			
事業内容	<p>本村の認知度向上と地域資源の情報発信・観光客誘客強化を図るため、平成25年度に誕生した地活キャラ及びARアプリを活用し、村内地域イベント、県内外でのキャラクターを介したイベントに積極的に参加し、PR活動を行う。また、本村14字自治会、青年会、婦人会、老人会等各種団体のイベントでの活用を行うと共に運用する人材の育成を行う。また、まつりやイベントでの特産品などの販促を推進するための広告塔として活躍させる。</p>						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	23,512	8,609	8,760		
		(b) 予算現額	23,512	8,609	7,747		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 1,013		
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計 (b+d)	23,512	8,609	7,747		
		B. 執行済額	22,818	5,072	7,540		
		うち交付金充当額	18,254	4,058	6,032		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率 (%) (B/A)	97.0%	58.9%	97.3%		
予算の状況の説明	不用額207千円は旅費、通信運搬費、委託費の執行残であるが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・キャラクター実働回数:60回	目標	(50回)	(60回)	()	()	
		実績	74回	75回			
	・他市町村等キャラクターとの対面による話題作り(6回)	目標	()	(6回)	()	()	
		実績		6回			
	・県外イベントへの参加(1回)	目標	()	(1回)	()	()	
実績			2回				
・PR用ノベルティグッズの開発(5アイテム)	目標	()	(5アイテム)	()	()		
	実績		4アイテム				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・北中城村外からの出演依頼が増えてきており、実働回数・他市町村等キャラクターとの対面について目標を達成することができた。 ・県外イベントへの参加について、福岡県でTV出演することができ、九州地方へ向け本村のPRをすることができた。また、村商工会が開催した東京わしたショップの物産展に同行し、本村特産品等と一緒に効果的に本村をPRすることができた。 ・PR用ノベルティグッズについて、4アイテムを開発し、概ね目標が達成できた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	・イベント参加、PR活動による北中城村の認知度向上 (三大まつり来場者数4%増 基準値H25:11.1万人)	目標	()	(11.1万人)	()	()	()
		実績			2.5万人		
進捗状況説明	・北中城村三大まつりで最大の集客数がある「ひまわりまつりIN北中城」が中止となってしまったため、2つのまつりの来場者数しかカウントできず、目標達成できなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターを商品や広報チラシ等に使用したいとの声がいくつかあった。 ・PR活動に従事することで村の観光案内人となりうるべく人材の育成も兼ねている。 ・キャラクターを使用できる要綱を整備したことにより、9件の申請があり、村内外へ本村及びキャラクターのPRが図られた。 ・北中城村の三大まつりである「ひまわりIN北中城」が暖冬等の影響により開花時期が予定より早まったため、開催中止となり、目標とする来場者数を達成できなかったため認知向上に至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村内に県内最大級の大型商業施設が開店し、村内への人の流れが大きく変わってきたことで、PR活動の際には観光パンフレットを配布するなど、観光客の村内への誘客を図っているが、観光客が直接地域に足を運びたいくなるような仕掛けが必要である。 ・今後も自治会単位のイベント等で様々な人材にPR活動に関わってもらい、観光人材育成を図っていく必要がある。 ・三大まつり共に屋外で開催されるイベントであるため、天候・気候の影響によるリスクは常に伴うものであるが、今後は、天候・気候などにも対応したPR活動を考えていく必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・PR活動の有効性向上及び地域を巻き込んだ観光PRを行うため、村内事業所へ協力を仰ぎ、PR活動時に配布する観光パンフレットにクーポン券機能を持たせるなど、村内各地への誘客を図る。 ・キャラクター商品等の利用は、村のPRに寄与し、また、新たな特産品を生み出す可能性を秘めている。今後も商工会等を通して、周知をしていき、村内事業者なども巻き込んで村のPRを図っていく。 ・雨天等のイベント時にもPR活動を実施できるよう可能な限りイベント会場でも室内スペースを確保するようにし、また、今後は雨天時などのキャラクター出演中止時にキャラクターを介せずに効果的なPR活動を行えるよう対策を検討する。 		

資金の流れ																
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
		<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">総事業費</th> <th rowspan="2">交付対象事業費</th> <th colspan="2">交付金</th> <th rowspan="2">交付対象外経費</th> </tr> <tr> <th>充当額</th> <th>市町村負担金</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7,540</td> <td style="text-align: center;">7,540</td> <td style="text-align: center;">6,032</td> <td style="text-align: center;">1,508</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費	充当額	市町村負担金	7,540	7,540	6,032	1,508	0		
総事業費	交付対象事業費	交付金			交付対象外経費											
		充当額	市町村負担金													
7,540	7,540	6,032	1,508	0												
北中城村 7,540千円	<ul style="list-style-type: none"> 臨時職員賃金 1,640千円 旅費 427千円 需用費 443千円 役務費 23千円 車両賃借料 409千円 委託料 4,597千円 	<ul style="list-style-type: none"> 臨時職員 1,640千円 職員及び嘱託職員 計4名 199千円 職員 計2名 228千円 燃料費 87千円 観光ガイドブック印刷 356千円 [2,000部] 通信運搬 23千円 [着ぐるみ運搬 (北中城村⇔福岡市)] トヨタレンタリース 409千円 株式会社KeyStaff 1,026千円 [キャラクター運用] 株式会社レキサス 1,944千円 [ノベルティグッズ制作] 株式会社フィールドコミュニケーションズ 1,627千円 [PR動画及びダンス振付動画制作] 														
資金の 使途の 流れ、 費目、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。														
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託契約においてプロポーザル方式等により実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ・予算規模について、適正な規模であった。 													
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。														
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・費目、使途について、検査を行っており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 													

市町村名	北中城村							
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑥	中城城跡へのアクセス(大城登又線)整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ			
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成26~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入態勢の整備			
事業内容	世界遺産「中城城跡」を核とした県営中城公園整備が進んでいる中で、当該公園北側に接する村道大城登又線の拡幅工事を推進し、観光客等を誘客を図る。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	4,493	9,180				
		(b)予算現額	4,493	8,210				
		(c)増減額(b-a)	0	▲970				
		(d)繰越額						
	A. 計(b+d)		4,493	8,210				
	B. 執行済額		4,266	7,797				
	うち交付金充当額		3,412	6,238				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		94.9%	95.0%				
予算の状況の説明		不用額413千円は入札執行残によるもので予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	基本設計:1箇所(1工区) L=300m		目標 (アクセス道路の検討)	(アクセス道路の基本設計 L=300m)	()	()		
			実績 アクセス道路の検討	アクセス道路の基本設計 L=300m				
達成状況説明	県営中城公園入口までの延長300mについて基本設計を行うことで地形や土質の把握ができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
			目標	()	(アクセス道路予備設計)の完了	(実施設計策定に向けた事業の着実な実施)	()	()
	実施設計策定に向けた事業の着実な実施		実績		アクセス道路予備設計の完了	アクセス道路基本設計の完了		
	進捗状況説明	資料結果を使用し公園管理者との協議等も完了したことで、今年度の基本設計で道路線形が決定した。特に課題となる用地買収箇所を把握することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 整備を行うにあたり、用地買収が伴う計画となり、地権者への意向確認をする必要がある。 拡幅工事を着手するにあたり村有地と県有地の交換が可能かどうかを調査する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 用地買収箇所となる資料を基に住民説明会を開催する必要がある。 公園管理者との協議を行うことにより工事着手前に手続きについて確認を行う。

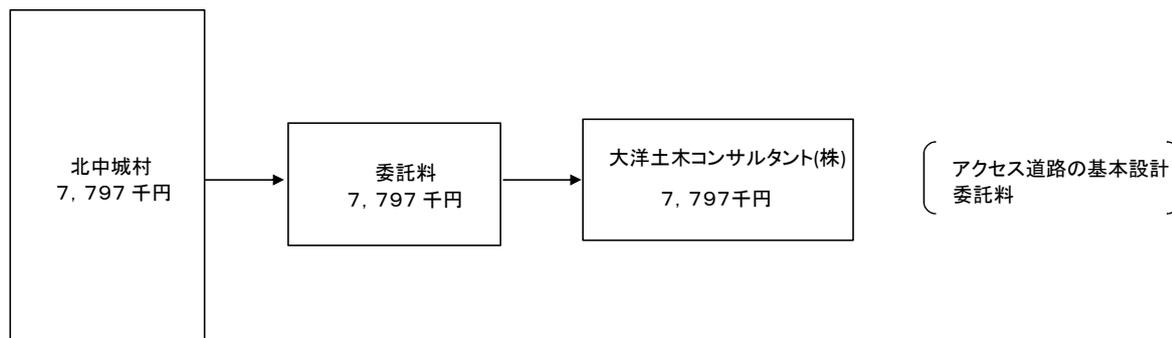
今後の取り組み方針

現在、県営公園が供用開始していることから、観光客の誘客を図るためにも早急に事業を進める必要性があり、平成27年度で作成された報告書を基に地権者説明会や同意収集を行う。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,797	7,797	6,238	1,559	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・費目、用途については精算段階で検査をしており、事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	東海岸まちづくり整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトウェアを活用した新事業・新産業の創出 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	本村の東海岸地域における低未利用地(遊休農地等)の有効的な土地利用を図るため、津波等の災害に強い防災基盤施設等の整備と併せて、魅力ある「食」の資源を活かした特色ある観光地として都市的基盤整備を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,933	30,153	8,750	9,150	
		(b) 予算現額	11,933	30,153	8,750	8,670	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲480	
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		11,933	30,153	8,750	8,670	
	B. 執行済額		11,411	22,029	5,616	8,186	
	うち交付金充当額		9,128	17,623	4,492	6,549	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		95.6%	73.1%	64.2%	94.4%	
予算の状況の説明		地権者全体を対象とした説明会(1回)を予定していたが、事業内容の変更により480千円減額した。不用額484千円は、入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	減災対策を加味したまちづくり整備基本計画策定の検討	目標	()	(基本計画策定の検討)	()	()	
		実績		基本計画策定			
	関係機関協議	目標	(関係機関協議)	(係機関協議の実)	()	()	
		実績	関係機関協議の実施	関係機関協議の実施			
	地権者合意形成	目標	(地権者合意形成の推進)	(地権者合意形成の推進)	()	()	
実績		地権者合意形成の実施	地権者意識向上実施				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度に作成した構想及び素案を基に追加案(2案)を基に基本計画を策定した。地権者合意形成については、地権者組織を立ち上げるまでにはいたらなかったが、まちづくりに対する意識向上に向けた勉強会を実施した。 ・関係機関協議では、先進地事例勉強会のため2カ所(大湾東土地区画整理組合・アワセゴルフ場地区土地区画整理組合)へヒアリングを実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	減災対策を加味したまちづくり整備基本計画の策定	目標	()	(基本計画の策定)	()	()	()
		実績		基本計画策定			
	進捗状況説明	過年度作成した構想や素案・追加案(2案)を基に、地権者を対象とした勉強会を3回実施し、基本計画を策定した。					

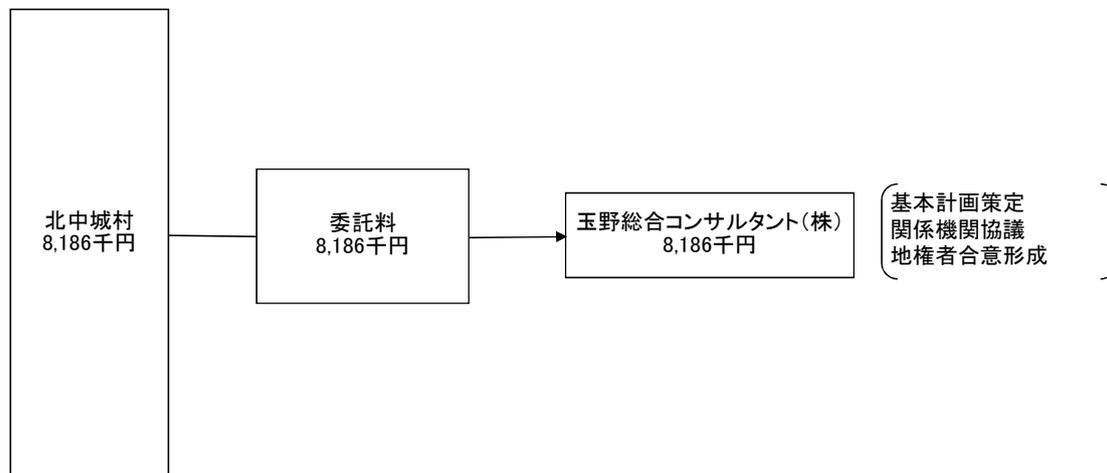
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地権者準備組織等(仮)を対象とした勉強会を開催予定であったが、地権者全体の意識醸成を図り、熟度を高めることが今後の組織立上げには必要であるとの判断から、全地権者に対し、3回の勉強会を開催した。 ・これまで参加者が少ないという点で課題があり、開催時間や開催場所等が検討事項であったが、昨年度に比べ参加者が増加していることから、意識向上やまちづくりに対する期待が高まっていると考えられる。 ・今年に入り地震が頻発していることから、これまで以上に防災に関する意識啓発、手法を検討するとともに市街化区域編入に向けて調整する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低未利用地(遊休農地等)を有効的に活用するため、これまで勉強会を行ってきたが、今後は地権者組織の発足が不可欠であることから、準備委員会や発起人会の人員等支援する必要がある。 ・まちづくりを進める中で調整すべき事項として、市街化区域編入や農業振興地域等の解除が挙げられるが地権者の意見を伺い、防災の観点を踏まえながら進めていく必要がある。

今後の取り組み方針

・策定した基本計画を基に、防災・減災対策及び地権者の土地利用意向の実現に向けた合意形成を図るとともに、ニュースレター等を発行し情報共有に取組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
8,186	8,186	6,549	1,637	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業者は指名競争入札により選定しており妥当であったと考える ・不用額生じているが、一部変更したことによるものであるため、予算規模は適正だと考える。 ・費目、使途については精算・検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

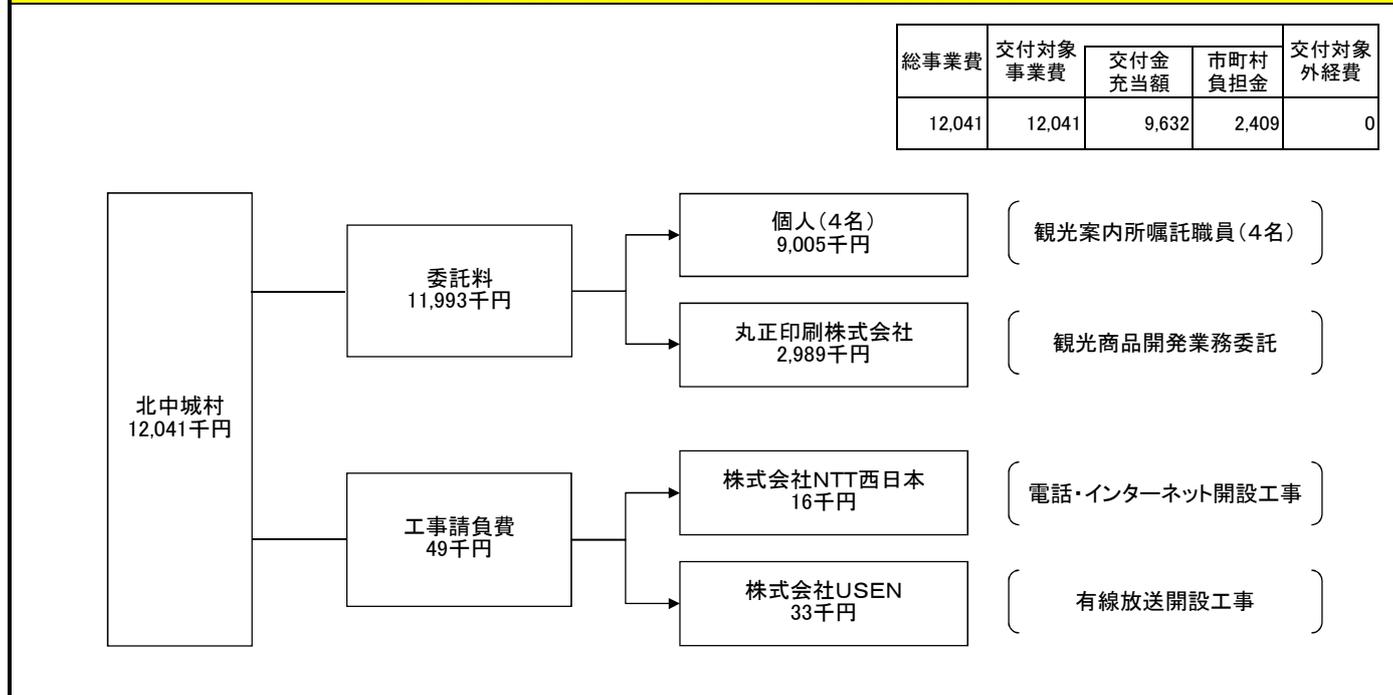
市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧		観光情報発信拠点推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
	担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成26～平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
事業内容		「イオンモール沖縄ライカム」内に設置した、観光情報発信の拠点となる北中城村観光案内所(仮称)を積極的に運用し、北中城村のみならず、沖縄県内全域の観光案内・情報発信等のサービスを提供するとともに、当該商業施設を訪れる観光客等のおもてなしを充実させ、村内各所へ誘導して村内飲食店等の活性化も狙う。平成27年度以降には観光協会や商工会、県内ホテル等との連携による観光商品(ツアー、イベント等)商品開発を行う。					Ⅲ-1-(1)
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,453	12,132			
		(b) 予算現額	20,453	12,054			
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 78			
		(d) 繰越額		—			
		A. 計(b+d)	20,453	12,054			
	B. 執行済額		17,190	12,041			
	うち交付金充当額		13,752	9,632			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		84.0%	99.9%			
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	観光案内所の案内業務の開始	目標	(業務開始)	()	()	()	
		実績	業務開始				
	観光商品(ツアー等含む)の開発(2アイテム)	目標	(2アイテム)	()	()	()	
実績		7アイテム					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内業務を開始し、本村の魅力のPRに努め、村内観光名所及び村内各事業所への案内を行った。 観光案内業務においては当村に限らず、近隣市町村のPRにも努め、県全体への観光客誘客を行った。 観光商品開発においては、村のPRツール制作及び観光ツアー向けのルートマップ制作を行い、需要調査を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	村内各所への誘客:案内所利用者の5割	目標	()	(5割)	()	()	()
		実績		0.8割			
	観光商品の開発:2アイテム以上	目標	()	(2アイテム)	()	()	()
		実績		7アイテム			
	案内所利用者数目標値:7,500人	目標	()	(7,500人)	()	()	()
		実績		31,263人			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 村内各所への誘客は2,474人となり、利用者全体の1割に満たなかった。 観光商品開発においては開発した観光商品についてのアンケート調査を実施、次年度のツアー造成に向け調査分析を実施した。 観光案内所の利用者数は年間目標値を大幅に上回る目標値416%となった。 観光案内に加え、官民連携の新しい形の観光案内所として視察の需要も多く、幅広い層の視察受入を行っている。(議員・観光庁職員・大学/大学院・マスメディア・旅行事業者・商工会・観光事業者・ロータリークラブ・各種業界団体など) 村の物産PRを目的とした商品販売を行っている。これらは販売事業としてではなく、村産品を中心としたPR事業として行っている。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ●観光案内所について <ul style="list-style-type: none"> ・H27/4に開業した大型ショッピングモール内に開設し同時に開業 ・本来の案内業務の他、官民連携の新しい形としての視察需要が高い ・ショッピングセンター内の案内需要が多く村内各所への誘客率が低い ・店舗内での販売については、商品の販売促進が課題 ●観光案内について <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所を中核とし、他のイベントなどでも観光案内を実施 ・官民連携事業としての視察需要が高くモデルケースともなっている ●観光商品開発について <ul style="list-style-type: none"> ・村のPRツール制作及び観光ツアー向けルートマップ制作を実施 ・制作した観光商品に係る調査を実施、需要の把握に努めた ●インバウンド対応について <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所へ訪れるインバウンドも多く、語学力が必要とされている ・村内飲食店を中心としたインバウンド向けの翻訳業の需要も高い ・中城湾港へのクルーズ船新規就航に伴う観光客増が懸念される 	<ul style="list-style-type: none"> ●観光案内所について <ul style="list-style-type: none"> ・スペースを有効に活用すべくレイアウト等について改善を行う余地がある。 ・村内各所への誘客率については需要とのバランスを見直し目標値の再設定を行う必要がある。 ・店舗内の販売については、商品点数の少なさやPR不足があり売上不振となっている。これについては別事業であるブランド構築事業における商品開発等を経て商品が充実していく必要がある。 ●観光案内について <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内は特にイベント等様々な形で提供できる余地がある。 ・視察需要は今後も継続的な需要があると考えられる。 ●観光商品開発について <ul style="list-style-type: none"> ・観光ルートマップの提供に留まらず、観光ツアー化する余地がある。 ●インバウンド対応について <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船にて来沖するインバウンドを中心に案内冊子の拡充を含めた観光案内の拡充を行い村への誘客につとめる。 ・村内の事業所より依頼される翻訳についてもテンプレートを作成するなどし、急増しているインバウンド需要への対応をサポートしていく。

今後の取り組み方針

- 観光案内所について
 - ・限られたスペースを有効活用すべくレイアウトについて改善を行い、来店者の満足度向上に努める。
 - ・観光案内所自体の知名度を高めるための取組みについても積極的にを行い来店者の増加に向け努める。
- 観光案内について
 - ・案内所での観光案内に加え、各種イベントや物産展において観光ブースを設置し、村の観光案内に従事し、観光PRを行い村内各施設への誘客に努める。
 - ・視察需要は今後も継続的な需要があることから、視察自体の商品化を検討し、以後の持続性を担保する原資とすべく検討をすすめていく。
- 観光商品開発について
 - ・当年開発した観光ツアー向けルートマップをベースに、旅行事業者などによるツアー造成による誘客増について検討をすすめていく。
 - ・他の村資源を活用した観光商品の開発についても引き続き検討をすすめていく、村の観光需要を高めていく。
- インバウンド対応について
 - ・観光案内冊子の多言語化や観光ポータルサイトの整備及び将来的な多言語化を視野に入れたプロモーション計画について検討を図り事業に取り組む。
 - ・クルーズ船により激増すると懸念されるインバウンドに対し、村内事業者が安心して受け入れられる環境整備支援についても検討・推進していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 使途の点 検・費 目・評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
○		支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は企画提案方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は観光案内にかかる経費を執行しており、適正な規模であると考えられる。 ○費用、使途については清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
○		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨	アワセゴルフ場周辺まちづくり整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成27～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の有効利用推進 III-8	
事業内容	アワセゴルフ場跡地は、土地区画整理事業により整備が進められ観光交流拠点にふさわしい街となる。また将来においては、アワセゴルフ場跡地に隣接するライカムローワ地区も返還され、この周辺一帯は新しい市街地を形成することになる。しかし、この両跡地に近い土地(プラザハウス周辺)は米軍基地に接していたため整備ができず老朽化した住宅が細路地に接続された状況となっていることから、本地区の再開発を目的に、一体性を連ねる観光交流拠点として活用するための調査・検討を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,000				
		(b) 予算現額	10,000				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	10,000				
	B. 執行済額		9,828				
	うち交付金充当額		7,862				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		98.3%				
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	現況、周辺の影響調査の実施	目標	(影響調査の実施)	()	()	()	
		実績	影響調査の実施				
	アワセゴルフ場周辺まちづくり勉強会(関係機関)の実施(2回)	目標	(勉強会の実施2回)	()	()	()	
		実績	勉強会の実施2回				
達成状況説明	アワセ地区への大型商業施設の開業による周辺への影響調査を行うことにより、現状の整理と把握を行うことができた。また、周辺まちづくり勉強会を行うことで貴重な意見が得られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	現況調査、周辺影響調査等を行い、目指すまちづくり案の検討に向けた課題の把握	目標	()	(課題の把握)	()	()	()
		実績		課題の把握			
	進捗状況説明	現状の整理を行うことにより、今後の目指すまちづくり案の検討にむけた課題について把握することができた。					

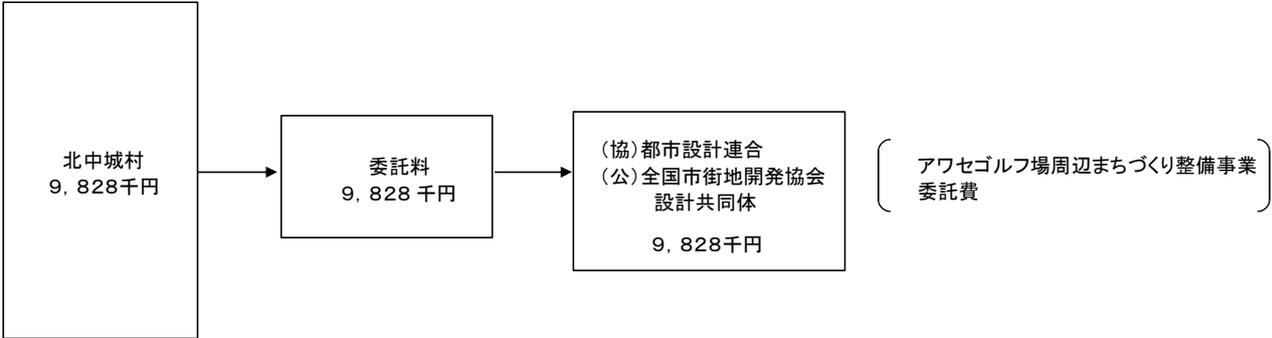
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今年度はアワセゴルフ場地区へ大型商業施設が開業したことによる影響を把握するための各種調査を実施した。しかし来年度は引続いて大型医療施設が開業することによる影響が加わることから、その状況把握が課題となる。	アワセゴルフ場の跡地開発によって多様な都市機能が複合的に整備され、地域ポテンシャルは大きく向上し始めている。しかし、これまでにあった既存の地域課題と新たに創出した地域課題について整理を行う必要がある。

今後の取り組み方針

平成28年4月には大型の医療施設の開業や既存の集落へと繋がる道路の開通など、アワセ地区周辺でも新たな変化があることから、その影響を把握し、目指すまちづくり案の検討に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
9,828	9,828	7,862	1,966	0



資金の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・ 委託事業者はプロポーザル審査によって実施しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・ 予算規模、費目、使途については事業目的達成の観点から必要であり妥当であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	

市町村名	北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑩	公営墓地整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-7		
担当部署名	住民生活課	事業実施(予定)年度	平成24年度～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトウェアを活用した新事業・新産業の創出 1-(1)		
事業内容	沖縄独特の墓地散在化の抑制と整理、景観的な配慮や住環境の改善を図るため、公営墓地用地の取得を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		4,660	42,615	78,716	113,463	
			4,660	42,615	78,716	82,096	
			0	0	0	▲ 31,367	
			0	0	0	0	
	B. 執行済額		4,410	40,981	43,560	80,217	
	うち交付金充当額		3,528	32,785	34,848	64,173	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		94.6%	96.2%	55.3%	97.7%	
	予算の状況の説明		不用額1,879千円については、委託費の入札残及び、不動産鑑定等が不要になった為。				
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	公営墓地用地の取得(7,722.27㎡)		目標 (7,722.27㎡)	()	()	()	
			実績 7,830.15㎡				
達成状況説明	事業予定用地14,388.13㎡のうち7,830.15㎡の用地取得ができた。地権者の公営墓地に対する理解、早期事業完了を望んでいることから、用地確保スムーズに進み、目標を上回ることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
			目標 ()	(84%)	()	()	()
	公営墓地用地の取得率(84%目標) 全体計画14,388.13㎡(H26取得:4349.73㎡)		実績	84.65%			
	進捗状況説明	用地取得に関する支援業務を実施することで、専門的見地から交渉を進めることができ、地権者及び関係者との相互理解が図られ、予定通りの用地取得ができた。残りの約16%の用地確保に向けてより一層の努力と、地権者との信頼関係で計画用地を確実に取得していきたい。					

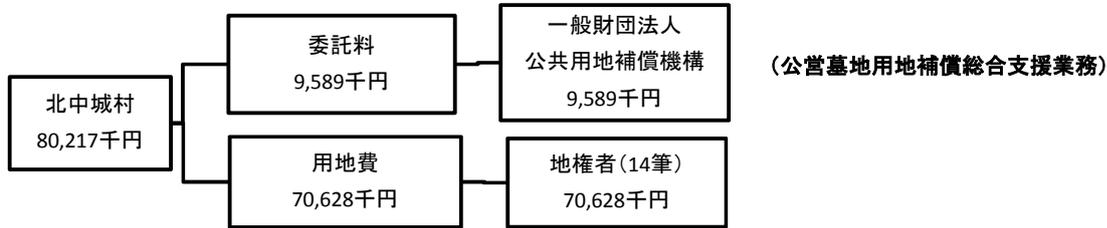
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>地権者に対し、公営墓地の必要性や重要性を理解してもらい用地を取得することができた。一方で、財産相続がある土地が存在するため、相続権利者へのアドバイス並びに手続きのサポートを行いながら用地取得に取り組む必要がある。</p>	<p>・未取得の用地について、墓地の散在化が住民生活に与える影響や公営墓地の必要性・重要性を理解してもらうため、公営墓地地権者に対し継続して交渉を行う必要がある。 ・財産相続による関係者へのサポートを行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

墓地散在化防止に向けた公営墓地整備を推進していくため、用地取得を継続して取り組み、その進捗に応じた進入路設備や墓地造成、建築工事を進める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
80,217	80,217	64,173	16,044	0



資金の 用途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者はプロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、事前に業者からの見積書を聴取し内容を精査しており妥当な金額であった。 ○費目、用途については積算段階で十分検討しており、必要なものであった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	アワセゴルフ場地区観光拠点づくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ウ		
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の有効利用の推進 III-8		
事業内容	観光客誘客が期待される駐留軍用地跡地である「アワセゴルフ場地区」の観光拠点まちづくり及び安心安全なまちづくりを推進し、災害にも強く魅力ある観光まちづくりを目指すため、災害時の一時避難所(商業施設)と医療施設の施設に係る連携体制構築に向けた調査・整備方針の検討を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,172	13,241	9,641	11,600	
		(b)予算現額	11,172	13,241	9,641	11,600	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d)繰越額	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)		11,172	13,241	9,641	11,600	
	B. 執行済額		10,585	13,112	7,448	11,480	
	うち交付金充当額		8,467	10,489	5,958	9,184	
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		94.7%	99.0%	77.3%	99.0%	
予算の状況の説明		不用額120千円は受注業者選定時のプロポーザルで、業務実施に伴う執行残であり計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	一時避難所と医療施設往来に必要な施設に関する調査・整備検討	目標	(調査及び整備検討)	()	()	()	
	実績	調査及び整備検討					
達成状況説明	アワセゴルフ場地区の観光拠点まちづくり及び安心安全なまちづくりを推進するにあたり、災害時の一時避難所(商業施設)と医療施設への往来に必要な施設として、横断歩道橋の調査と整備についてを概略検討を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	一時避難所と医療施設を結ぶ整備方針の決定	目標	()	(整備方針決定)	()	()	()
		実績		整備方針決定			
進捗状況説明	・アワセ地区の観光拠点及び安心安全なまちづくりを推進するにあたり、医療施設と商業施設の交通結末点(バス発着場)・災害時の連携対策を目的とした横断歩道橋の検討を医療施設及び商業施設の関係者や構造・景観について有識者へヒアリングすることにより、歩道動線やデザイン、平面的な設置位置や橋種選定・主要構造材等の方向性が決定し、アワセ地区の象徴性となる歩道橋の条件整理をすることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 横断歩道橋の設置にあたり、沖縄県道路管理者と公安委員会との協議が今後の課題となる。 接続箇所となる商業施設の用地の確保、医療施設の構造について再度検討等が必要になる。 横断歩道橋の幅員や昇降施設を精査するために調査が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の検討結果を含めて、道路管理者や埋設物占有者等歩道橋設置に係わる関係機関との協議が必要となる。 横断歩道橋設置するにあたり、商業施設内の用地の確保や医療施設側の構造について再度確認が必要となる。 利用想定や必要幅員の確定するために、交通量調査を行うことが必要となる。

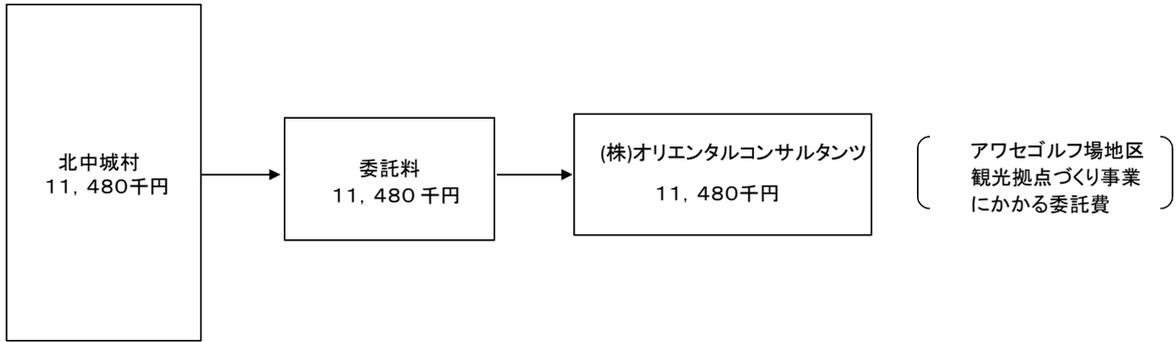
今後の取り組み方針

・アワセゴルフ場地区の観光拠点まちづくり及び安全安心なまちづくりを推進し、災害に強いまちづくりを目指すため、今年度の報告書を基に関係機関との協議を行う。
 ・平成28年4月に医療街区がオープンし、道路が開通することによる交通量や横断者数の調査、地質調査等に取り組む。

k

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
11,480	11,480	9,184	2,296	0



資金の流 れ、費 目・ 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は指名プロポーザルを実施しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は業者見積により設定しており適正の規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目、使途については、事業目的達成の観点から必要であり妥当であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	アワセゴルフ場地区歴史・まちづくり映像保存事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	III-8		
事業内容	アワセゴルフ場地区は、戦前は肥沃な土地に恵まれた比嘉集落が形成され、自作農で生産性も高く豊かな集落であったが、戦後、強制的に土地が収用され60年あまりにわたって米軍娯楽施設のゴルフ場として使用され、平成22年7月に返還された。そのような戦前の営みからゴルフ場利用、返還合意から土地利用までの歴史文化の継承を図るため、映像記録、編集を実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	1,000	940	940	1,020	
		(b)予算現額	1,000	940	940	1,020	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d)繰越額	0	0	0	0	
		A.計(b+d)	1,000	940	940	1,020	
	B.執行済額		940	940	940	992	
	うち交付金充当額		751	751	751	794	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		94.0%	100.0%	100.0%	97.3%	
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	まちびらきの映像撮影	目標	(映像記録の作成)	(映像記録の作成)	(記録映像の撮影時間:3時間)	(まちびらきの映像撮影)	
		実績	映像記録の作成	映像記録の	記録映像の撮影時間:3時間	まちびらきの映像撮影実施	
	住宅地造成や医療施設の建設等記録映像撮影時間:3時間	目標	()	()	()	(記録映像の撮影時間:3時間)	
		実績				記録映像の撮影時間:3時間	
達成状況説明	本年度は、まちづくりの核となる商業施設街区完成や幹線道路の開通などがあり、まちづくりの一步となる街開きの映像や医療街区の進捗状況を記録することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	記録映像の作成(進捗率:60%)	目標	(映像記録の作成)	(映像記録の作成)	(映像記録の作成 3時間)	(記録映像作成進捗率60%)	()
		実績		映像記録の作成	映像記録の作成 3時間	記録映像作成進捗率60%	
	進捗状況説明	戦後、強制的に土地が収用されたアワセゴルフ場地区での土地区画整理事業が平成25年度より工事が着工され、今年度、街びらきを開催するまでに開発が進んだ。今後、新たな街として生まれ変わることとなるアワセゴルフ場地区にとって、大きな歴史の一步となる記録映像を残すことができた。					

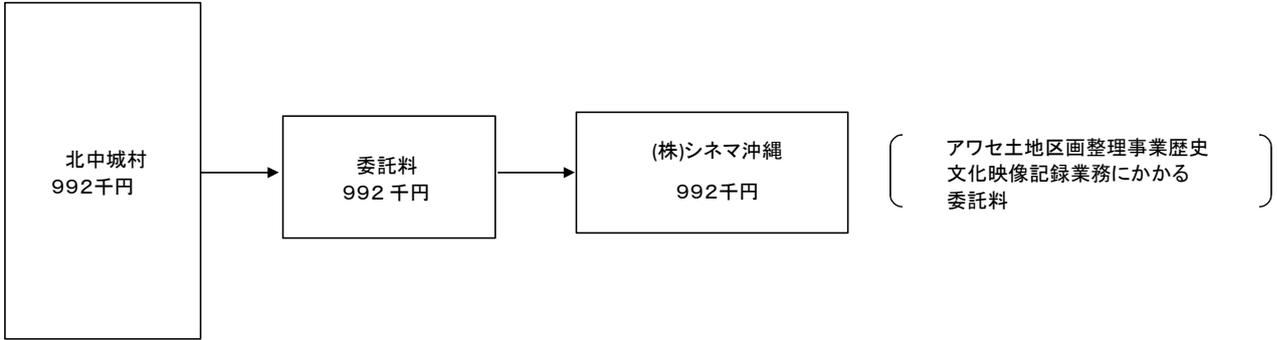
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	これまで、まちづくりの映像記録として地上からの撮影が主であり、返還された跡地の広大さが不明確な点が課題である。	街びらきから1年が過ぎた状況と米軍に接收された当該跡地の状況を上空撮影として記録を残し、跡地の広大さや今後の基地跡地利用を検討している市町村においても分かり易い記録映像となるよう検討する必要がある。

今後の取り組み方針

次年度は当該地区において進出企業となる医療施設の開院、住宅地区の整備及び建築等が計画が予定されている。これまで地上からの映像記録として撮影を行っていたが、広大な敷地も記録として残す必要もあると考え、上空撮影を検討し新たな街づくりの記録映像に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
992	992	794	198	0



資金の 用途の流れ、 点検項目・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	随意契約であるが、委託業者は実績等を勘案して契約しており妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は事業内容に見合った適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目、用途については精算段階で検査を実施しており、事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考えている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	アワセゴルフ場地区公共用地取得マネジメント事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成26～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取り組み III-8	
事業内容	アワセゴルフ場跡地は、平成22年7月に返還され都市計画決定及び県条例における環境影響評価を行い、平成25年度より造成工事が開始されており、造成工事の進捗に合わせて平成26年度より公共用地の取得準備を開始する。跡地利用の計画的な進捗には、公共用地の取得も計画的に進める必要があり、そのために、用地アセスメントから買収・登記まで一連して計画的に進めるために用地取得マネジメントを行い跡地利用の迅速な推進を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	(a) 当初予算額	3,000	11,500				
	(b) 予算現額	3,000	11,500				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0				
	(d) 繰越額						
	A. 計 (b+d)	3,000	11,500				
	B. 執行済額	2,905	11,282				
	うち交付金充当額	2,324	9,026				
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)	96.8%	98.1%				
予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	対象49筆のうち25筆以上と売買契約締結	目標	(用地取得計画作成)	(25筆以上と売買契約)	()	()	
		実績	用地取得計画作成	51筆と売買契約			
達成状況説明	当初対象筆数49筆であったが、仮換地指定の変更があり対象筆数が53筆に増えたため、当初対象筆数を上回ることであった。筆数は増えたが当初設定した活動目標の割合は達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
		目標	()	(用地取得計画作成)	(整備に向けた事業の着実な実施)	()	()
	H29年度整備に向けた事業の着実な実施	実績		用地取得計画作成	整備に向けた用地買収の実施		
	進捗状況説明	前年度作成した用地取得計画に沿って用地取得を概ね完了することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・用地買収を進めるにあたっては、地権者ごとで考え方が異なるため、地権者情報を把握し、その情報に沿ったかたちで地権者との交渉を進める必要がある。 ・区画整理地内の用地購入ということもあり、通常よりも手続きに時間を要したため、関連性を整理しながら対応する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関(法務局、区画整理組合、国税事務所)において、必要な手続内容等の確認を随時行い、手続きがスムーズに進めるように委託業者との業務連携を図る必要がある。

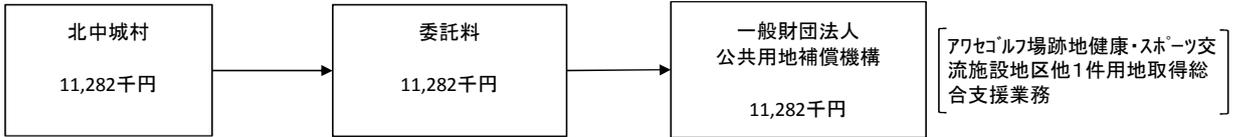
今後の取り組み方針

・本業務は、平成26年度に実施したアワセゴルフ場地区公共用地取得マネジメント業務で設定した用地交渉におけるリスク設定に基づき業務を遂行していた。しかし、2地権者については用地買収ができなかった。そのうち1地権者においてはアワセ土地区画整理組合との補償問題が解決できず、用地買収にも応じてもらえなかった。また、もう1地権者においては、業務当初から丁寧な用地交渉を進めていたにも関わらず、法人財産処分等による問題から、今年度中に解決することができなかった。今後は、その用地リスクについて解決手法を検討し、その手法に基づいて業務遂行していく。

・契約手続きを完了できなかった地権者と交渉し、用地取得を完了する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
11,282	11,282	9,026	2,256	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○アワセゴルフ場跡地健康・スポーツ交流施設地区他1件用地取得総合支援業務は、正確な分析と実施すべき作業等について適切に判断できる専門的知識と知見かつ豊富な実務経験を有することが求められており極めて専門性の高い業務である。よって、それらに関する専門性がある業者の公募を行いプロポーザル方式により決定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額は事業費の5%以内であり適切な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については完了時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④		喜舎場ハウジング地区跡地利用推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア	
	担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組 Ⅲ-8
事業内容	<p>駐留軍用地キャンプ瑞慶覧「喜舎場ハウジング地区」内における跡地利用推進計画として、喜舎場スマートICのフルインター化に向け、インターチェンジのレイアウト(案)の検討、道路構造、跡地利用などの調査を実施する。</p>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,000	5,000	15,056		
		(b) 予算現額	16,000	5,000	22,076		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	7,020		
		(d) 繰越額	-	-	-		
		A. 計(b+d)	16,000	5,000	22,076		
	B. 執行済額		12,106	4,590	22,032		
	うち交付金充当額		9,685	3,672	17,625		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		75.7%	91.8%	99.8%		
予算の状況の説明		事業内容の変更により9月補正で7,560千円増額した。不用額540千円は執行残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・スマートインターチェンジレイアウト案作成	目標	()	(スマートインターチェンジレイアウト案作成)	()	()	
		実績		スマートインターチェンジレイアウト案作成			
	・スマートインター地区協議会作業部会の開催(2回)	目標	(作業部会1回)	(作業部会2回)	()	()	
		実績	作業部会1回	作業部会2回			
	・概算費用の算出	目標	()	(概算費用の算出)	()	()	
		実績		概算費用の算出			
	・交通量調査	目標	()	(交通量調査)	()	()	
		実績		交通量調査			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・喜舎場スマートインターチェンジをフルインター化するにあたり、レイアウト案を作成するとともに、概算費用を算出し作業部会(2回)において各関係機関の意見を聴取した。 ・喜舎場スマートインターのフルインター化による影響を把握するため村内交通量調査を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・スマートインター整備に係る課題の把握	目標	()	(交通量観測計画・交通量推計作成)	(喜舎場スマートIC周辺アクセス道及び跡地利用の検討)	(スマートインター整備に係る課題の把握)	()
		実績		交通量観測計画・交通量推計作成	喜舎場スマートIC周辺アクセス道及び跡地利用の検討	スマートインター整備に係る課題の把握	
	・関係機関との情報共有	目標	()	()	()	(関係機関との情報共有)	()
		実績				関係機関との情報共有	
	進捗状況説明	喜舎場スマートインターレイアウト案の一つについて、実際の施工が可能であるかが課題であることから、施工可否及び施工方法等について検討を行い、作業部会を通して関係機関へ情報共有を行った。					

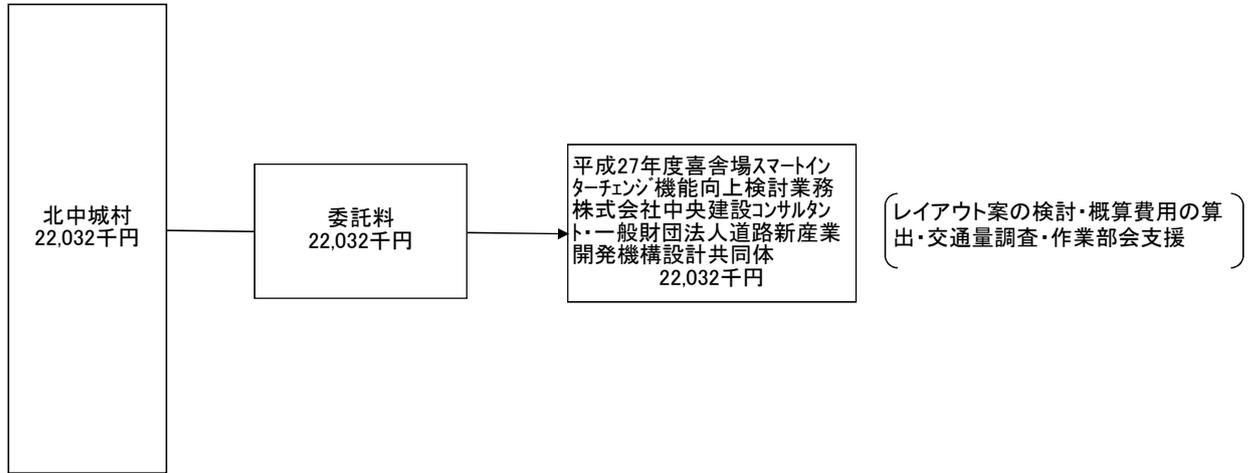
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	嘉手納以南の土地返還計画に基づきキャンプ瑞慶覧(喜舎場ハウジング)地区も返還予定時期が示されたことから、早期に跡地利用・活用について検討していく必要がある。当該地区に隣接する喜舎場スマートインターチェンジは、南向INのみでありながら約2,000台/日近くの利用があるため、跡地利用をスマートインターのフルインター化に向けて取組む必要がある。レイアウト案を作成し、作業部会を通して関係機関へ情報共有を行った。一部の案について、現実的に施工可能かとの課題が出たことから施工可否及び施工方法等について検討を行った。また、返還時期が「2024年またはその後」と発表されていることから取組進捗については、外的要因による影響が大きいため、今後の動向にも注視して進めていく必要がある。	施工可能可否についての結果を関係機関へ情報共有するとともに、今後はレイアウト案を絞り込み、概算費用を算出する必要がある。また、喜舎場インターチェンジに関わる用地について、道路・残地部分の面積算定を行い地権者情報の整理が必要である。

今後の取り組み方針

「2024年度またはその後」と打ち出された返還時期に向けて、レイアウト案の絞り込みや許認可申請(案)作成、地元への事業説明等も含め継続的に実施し、作業部会で関係機関との情報共有を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
22,032	22,032	17,625	4,407	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、公募型プロポーザル方式により実施しており、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行率等から見て適正な規模と認識している。 ○費目、使途については精算段階で検査しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組	
事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワープラザ住宅地区の跡地利用を促進するための基金を創設し、公有地の先行取得を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	57,000	118,593	117,400		
		(b) 予算現額	57,000	118,593	236,614		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	119,214		
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)		57,000	118,593	236,614		
	B. 執行済額		57,000	117,428	236,604		
	うち交付金充当額		45,600	93,942	189,283		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	99.0%	99.9%		
予算の状況の説明		不用額10千円の内訳は不動産鑑定手数料6千円、先行取得に関する支援業務4千円であり、適正に執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	公有地の買取り実施(4,500㎡)		目標 (4,500㎡)	()	()	()	
		実績	6,606㎡				
達成状況説明		4月1日時点で価格の時点修正後、沖縄市と協議し価格を設定した。申出期間1ヶ月間で目標より多くの地権者からの申出があったため予定より約2,000㎡多くの面積を取得できた。契約日を10月1日目標とし、関係機関と調整しながら年内に所有権移転登記や支払いまで完了することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	用地取得率:47% (取得目標:9,500㎡ H27年度取得:4,500㎡)		目標 ()	(47%)	()	()	()
			実績	69.50%			
進捗状況説明		当該地区の1筆あたりの平均面積が600㎡と大きいことから、約7筆程度を取得目標と設定していた。実際の申出は7筆であるものの総面積が6,606㎡と平均より大きな土地であったため、取得目標率が目標を上回るようになった。					

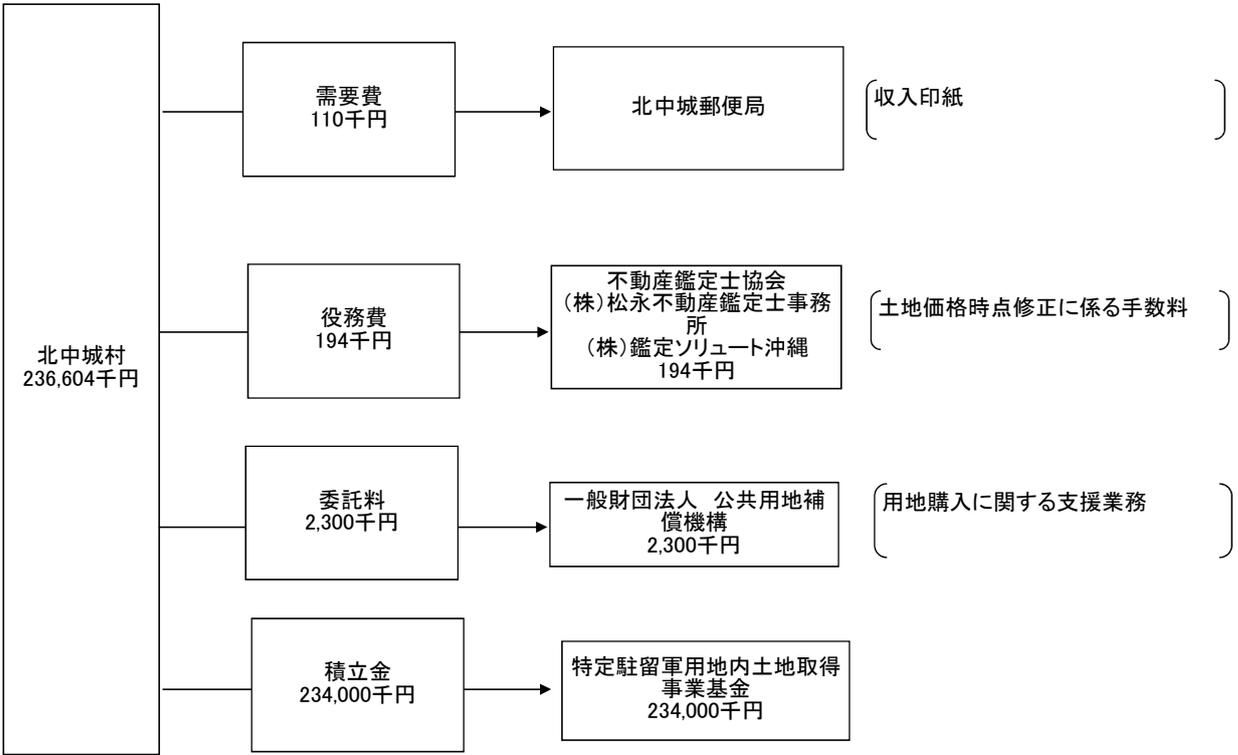
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	北中城村と沖縄市に跨るロウワー・プラザ地区の跡地利用については、平成15年度から取組んできており、返還時期が明確になったことから、公有地(公園・緑地)を先行取得する目的で、基金の設置、用地購入を進めてきた。事業を進める中で、1筆あたり複数名の共有者がいる場合の合意形成、中でも近親者以外が共有者であった場合の合意形成が難しく、意見の集約等に時間を要することが懸念されたが、協議により契約・所有権移転登記等を含めて年内に完了することができた。	共有者については、全員の同意が得られない場合は、早期から状況把握し分筆等を含めて早期から協議して行く必要がある。先行取得の対象地権者について、沖縄防衛局や国税事務所など関係機関との協議を平行して進めることにより事務的な作業が効率よく進み、後の契約等の作業がスムーズに行える。

今後の取り組み方針

残り約1/3取得に向け、これまでの取得実績や事業内容等を改めて地権者に対して説明し、協力を依頼する。関係機関との協議についても早期から取り組み10月1日契約、年内移転登記完了、支払い完了を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
236,604	236,604	189,283	47,321	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は指名競争入札により選定しており妥当であったと考える ・不用額は事業費の1%以内であり適正な規模であった。 ・費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	雇用サポートセンター事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-7
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	雇用機会の創出・拡大と求職者支援
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-2

事業内容
 活力ある地域づくりを目指し、高い水準で推移している失業率の改善を図るため、若者や退職期を迎えた団塊の世代の再就職希望対応など、雇用サポートセンターでの継続した雇用支援を実施する。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	5,207	2,364	2,364	4,595	
	(b) 予算現額	5,207	2,364	2,364	4,093	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 502	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)	5,207	2,364	2,364	4,093	
	B. 執行済額	4,139	2,251	2,364	3,827	
	うち交付金充当額	3,310	1,800	1,891	3,061	
	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)	79.5%	95.2%	100.0%	93.5%	
予算の状況の説明	12月の計画変更で備品購入費および通信運搬費等を減額しているが、概ね事業計画どおりに予算執行を行った。					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況				
		25年度	26年度	27年度	28年度	
登録企業の開拓	目標	(実施)	(40件)	(60件)	()	
	実績	実施	62件	69件		
求職者のマナー等指導実施(随時)	目標	(実施)	(24件)	(24件)	()	
	実績	実施	23件	33件		
事業活動の周知拡大	目標	(周知拡大)	(2媒体)	(3媒体)	()	
	実績	周知拡大	3媒体	3媒体		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 登録企業の開拓については、臨時職員を1名増員したことで企業訪問の機会が増え、目標値を上回る69件の企業開拓を実施することができた。 求職者のマナー等指導実施については、主に高齢者、若年者を含めて、昨年度同様紹介前に履歴書・職務経歴書記入方法、面接対策等を実施することで目標値を上回った。 事業活動の周知拡大については、雇用システムからの求人、求職情報の案内に加え、村広報誌への掲載、昨年度開設した雇用サポートセンターブログを活用し、利用者へ広く情報提供ができた。 					

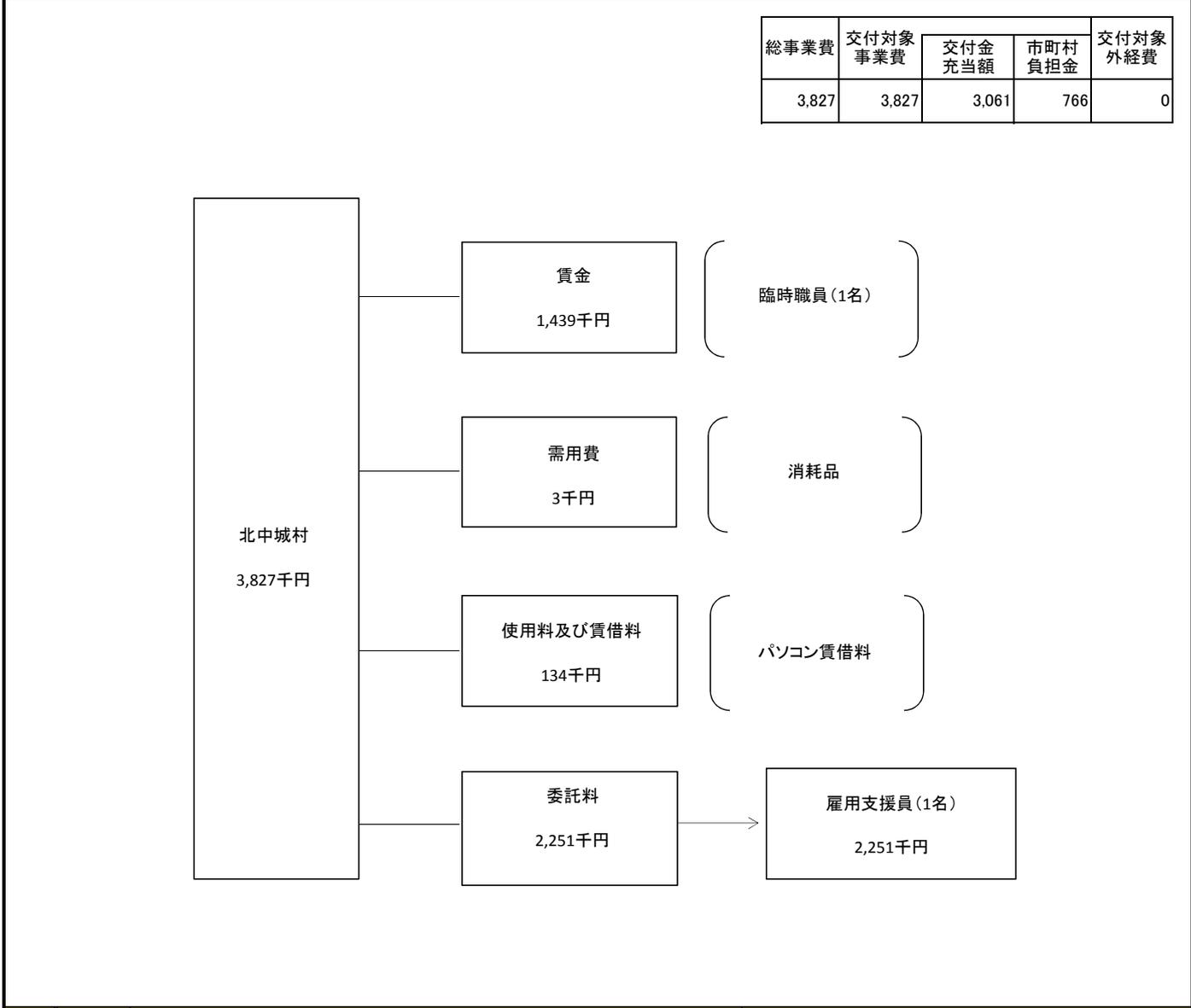
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
			失業者のマッチング人数:30人	目標	()	(24人)
	実績		27人	14人	11人	
新規求人数:150件	目標	()	(150件)	(150件)	(150件)	()
	実績		112件	464件	444件	
新規登録事業所数:53社	目標	()	()	()	(53社)	()
	実績				69社	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 例年求人ニーズは高いものの、企業側の資格要件と求職者の保有資格等に乖離があり、マッチング数が当初目標の5割以下となった。新規登録事業所数は目標値を上回っており、求職者の意識改革を面接等で行う必要がある。今後も求職者ニーズにあった求人開拓・紹介、また、求職者への条件緩和等の指導・相談を行い早期再就職へ向けての活動を実施していく。 新規求人数は、大型商業施設の開業等の影響により順調に推移している。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様求職者と求人者のアンマッチが多い。特に求職者の企業側に求める条件が高く、採用に至らないケースが多い。 ・企業の求める人材も多様化し、資格だけでなく、実務経験を重視し、即戦力の人材を求める企業が多い。 ・雇用サポートセンターの体制強化により、訪問による企業開拓を実施することで、企業側が求める人材を把握することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年課題となる、求職者と求人者とのアンマッチについては、スキルアップのためのセミナーや資格取得のための情報を求職者に提供することや、求職者への条件緩和等の指導が求められる。 ・就学期に職業観や就業観を育む、グッドジョブ連携推進事業とのタイアップにより、成長段階に応じたキャリア教育が必要である。

今後の取り組み方針

- ・資格取得等のスキルアップを目指す求職者へ、積極的に情報提供を行い、企業の求める人材サポートを図る。
- ・企業に対して雇用関係給付金のメリットをPRし、登録企業の増加を促進する。
- ・定年退職者のセカンドキャリアに対応できるよう、求職者ニーズに合う求人の開拓を進めていく。
- ・ハローワークの求人情報(PDFデータ)を毎日更新し、引き続き求職者に提供する。
- ・求職登録、閲覧システムの利用促進を図るため、チラシ等を作成し、周知、広報に努める。
- ・他関係団体とのネットワークを構築し、情報収集を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 使途の 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託職員1名を継続雇用することで、求職者に対しインテークから就業までを継続的にサポート・支援することができている。 ・予算規模については村規定に基づき適正であった。 ・費目・使途については雇用サポート業務に精通した人員を配置し、適正に執行していると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	グジョブ連携推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 Ⅲ-2		
事業内容	将来のまちづくりの担い手となる児童生徒の勤労観・職業観と学校をはじめ地域全体の連携による雇用問題の解決や就業意識の向上を図るため、ジョブシャドウイングをはじめとする包括的なキャリア教育を実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	14,934				
		(b)予算現額	13,732				
		(c)増減額(b-a)	▲1,202				
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	13,732				
	B.執行済額		13,720				
	うち交付金充当額		10,976				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.9%				
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	教職員への講習会の開催	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	ジョブシャドウイング・職場体験の実施及び実施の为一連の取り組みの実施(小学校2校、中学校1校)	目標	(3校)	()	()	()	
		実績	3校				
	講習会、講演会等の開催(3回)	目標	(3回)	()	()	()	
実績		3回					
達成状況説明	・教職員への講習会の開催については、キャリア教育の必要性やジョブシャドウイング事業説明を実施した。 ・ジョブシャドウイングは北中城小学校、島袋小学校の6年生全生徒195人に実施し、地域内で働く人の仕事に対する姿勢や働く思いを観察することで、職業観、就業観を育むことをねらった。中学生を対象とした職場体験支援として受け入れ企業開拓を実施した。 ・北中城中学校の1年生を対象とした職業人講話「校内ハローワーク」、マナー学習、北中城高等学校での「先輩の話を聞こう! ! ジョブトーク」を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	就業意識向上把握	目標	()	(就業意識向上把握)	()	()	()
		実績		就業意識向上把握			
	低学年から高学年、中学校への就業意識変遷	目標	()	(就業意識変遷)	()	()	()
		実績		就業意識変遷			
進捗状況説明	・就業意識向上把握については、2校中1校で実施した。(島袋小学校59名)「大人になったら仕事をしたいですか?」の設問について、59名の児童が「仕事をしたい」と回答した。 ・就業意識変遷については、働くことへのイメージが「変わった」と回答した割合は、87.7%で、本事業を実施することで、生徒の就業意識が変わった。						

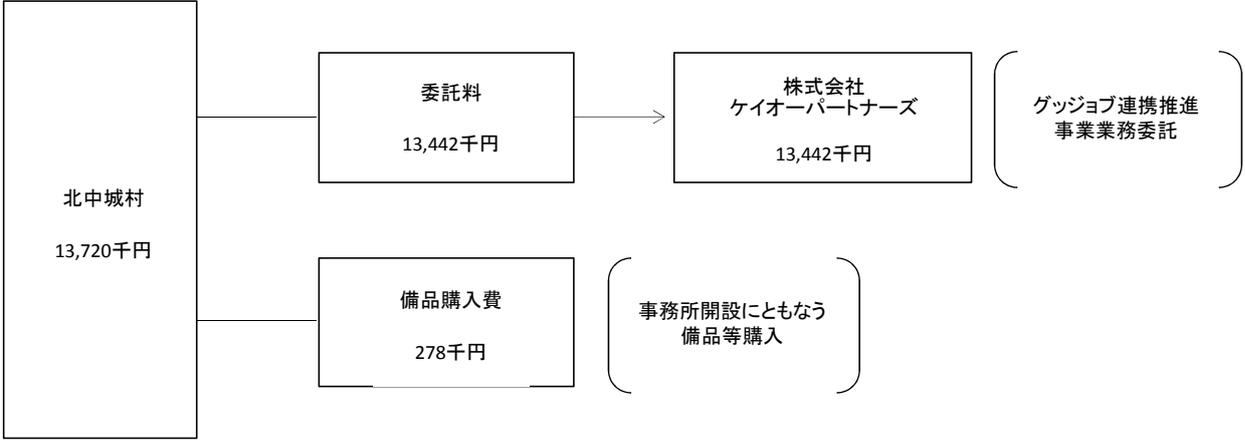
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 小学生向けに取り組んだジョブシャドウイングでは、地域内で働く人の仕事に対する姿勢や働く想いを観察することで、職業観や就業観を育み、ちやれんじJOBでは、村内の様々な事業所での体験活動を通して、北中城村の産業に関心を高めるきっかけづくりが行えた。 中学生を対象に実施した「校内ハローワーク」では、村内にある複数業種の方々の話を聞くことで、地域には様々な産業や多様な職業があることに気づかせるきっかけとなった。 北中城高等学校の2年生に対し、インターンシップの事前学習の位置づけとして出前フォーラムを実施した。高校生にとって身近な先輩の話を聞くことで、将来の自分に置き換えて考えることができ、「なりたい自分」から「なれる自分」を意識し、より具体的な進路選択を考えるきっかけになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校のジョブシャドウイングでは、未来の北中城村を担う子どもたちの就業意識の向上や、キャリア形成を確立していくため、より多くの保護者や地域住民の協力体制の構築が重要である。今後は、村内の各自治会や子ども育成会、青年会や老人クラブ等各種団体との連携を図り、当該事業のサポーターとして事業に参画してもらえ体制を整える必要がある。 当該事業の趣旨や取り組みを十分に理解していただけるよう、保護者や地域住民向けのキャリア教育講演会などの場を設ける必要がある。また、北中城村型キャリア教育の理念や取り組み等広く発信できるようにホームページの開設や、メディア媒体へのアプローチを検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・今後の取り組みを効果的にしていくためにも、今年度の改善点を精査し、次年度以降地域を巻き込んだ北中城村型キャリア教育の確立を目指す。
 ・小中高それぞれの発達に応じた取り組みと中学卒業無業者をはじめとした、若年者雇用問題への対策も、本事業で引き続き支援できる体制の構築に努める。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
13,720	13,720	10,976	2,744	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、公募型プロポーザル方式により実施しており、企業組織、実績、知識等を勘察した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行率等から見て適正な規模と認識している。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	農業経営改善支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ	
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 III-1-(6)	
事業内容	生産性の向上と後継者不足及び耕作放棄地の解消を目指し、農業者の技術支援及び助言と、就農を希望する若者の人材育成のため、農業経営改善支援員を派遣する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算状況	(a)当初予算額	4,252	4,252	2,126	4,205	
		(b)予算現額	2,208	4,252	4,079	4,205	
		(c)増減額(b-a)	▲2,044	0	1,953	0	
		(d)繰越額	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)		2,208	4,252	4,079	4,205	
	B. 執行済額		1,227	2,332	4,080	4,205	
	うち交付金充当額		981	1,865	3,263	3,363	
	次年度繰越額		0	0		0	
	執行率(%) (B/A)		55.6%	54.8%	100%	100%	
予算の状況の説明		農家への経営及び技術指導を行う為、営農指導員を2名配置した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	農家への経営指導及び技術支援の実施(40件)		目標 (40件)	(40件)	(2名)	(40件)	
			実績	40件	40件	2名	40件
達成状況説明	指導員を2名配置し、巡回強化を行うことで、経営指導及び技術支援の目標を達成した。また、農家巡回の際、耕作放棄地等や農業者の情報収集を行うことで、北中城村の農地バンク等の活用による耕作放棄地の解消及び就農希望者への農地の斡旋等を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
			目標 ()	(1件)	()	()	()
	認定農業者の認定数(1件)		実績	0件			
	進捗状況説明	農家巡回の際、本村の人・農地プランに掲載されている中心経営体へ積極的に農業支援の情報提供(認定農業者、認定新規就農者等)を行ったが、認定には至っていない。					

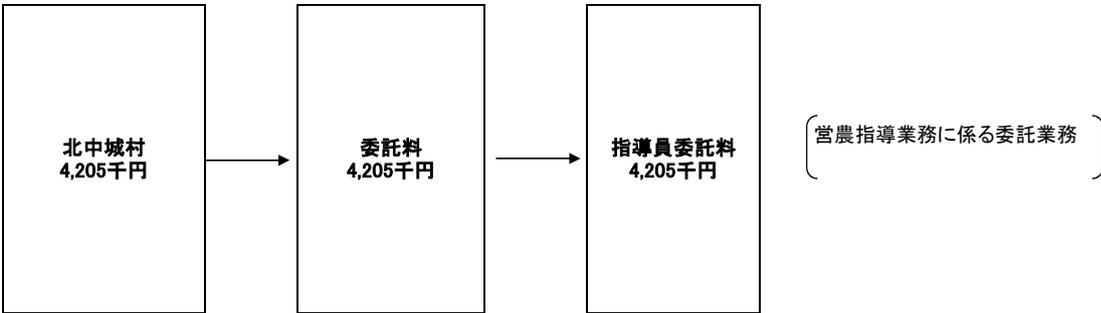
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・北中城村農地バンク等を活用し、耕作放棄地の解消及び就農支援を行ったが、若者の新規就農者や、後継者育成を行うことができなかった。又、既存の農業者に対しても、農業経営改善指導等を行い、農業者の所得向上の取り組み支援を行う必要がある。</p>	<p>・新規就農者や後継者の育成支援を行うためには、農地の幹旋、生産基盤の整備、作付品目の選定、出荷先の確保まで一体的に支援していく必要がある為、関係機関等が実施している農業関係の講座や研修、農地の幹旋、補助事業の情報提供を実施していく必要がある。又、既存の農業者に対する支援として、農業経営改善計画等の作成支援を行い、農業者の所得向上支援を図る必要がある。</p>

今後の取り組み方針

・引き続き指導員2人の確保に努め、経営指導及び技術支援を行う。その際、各農業者の作付体系を作成し、農業者の技術向上及び意識向上を図り、認定新規就農者や認定農業者を育成する。
 ・農家巡回の際、農地及び農業者の状況を把握し、北中城村農地バンク等を活用し、耕作放棄地の解消や新規就農者確保に努める。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,205	4,205	3,363	842	0



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・農業経営改善支援員としての知識や能力を選考判断とし、農家へ経営指導や技術面の指導、農家からの相談等に対応できる者を採用したため妥当であった。 ・予算規模は、村規則に基づき適正である。 ・費用・使徒については委託料のみであり、妥当であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

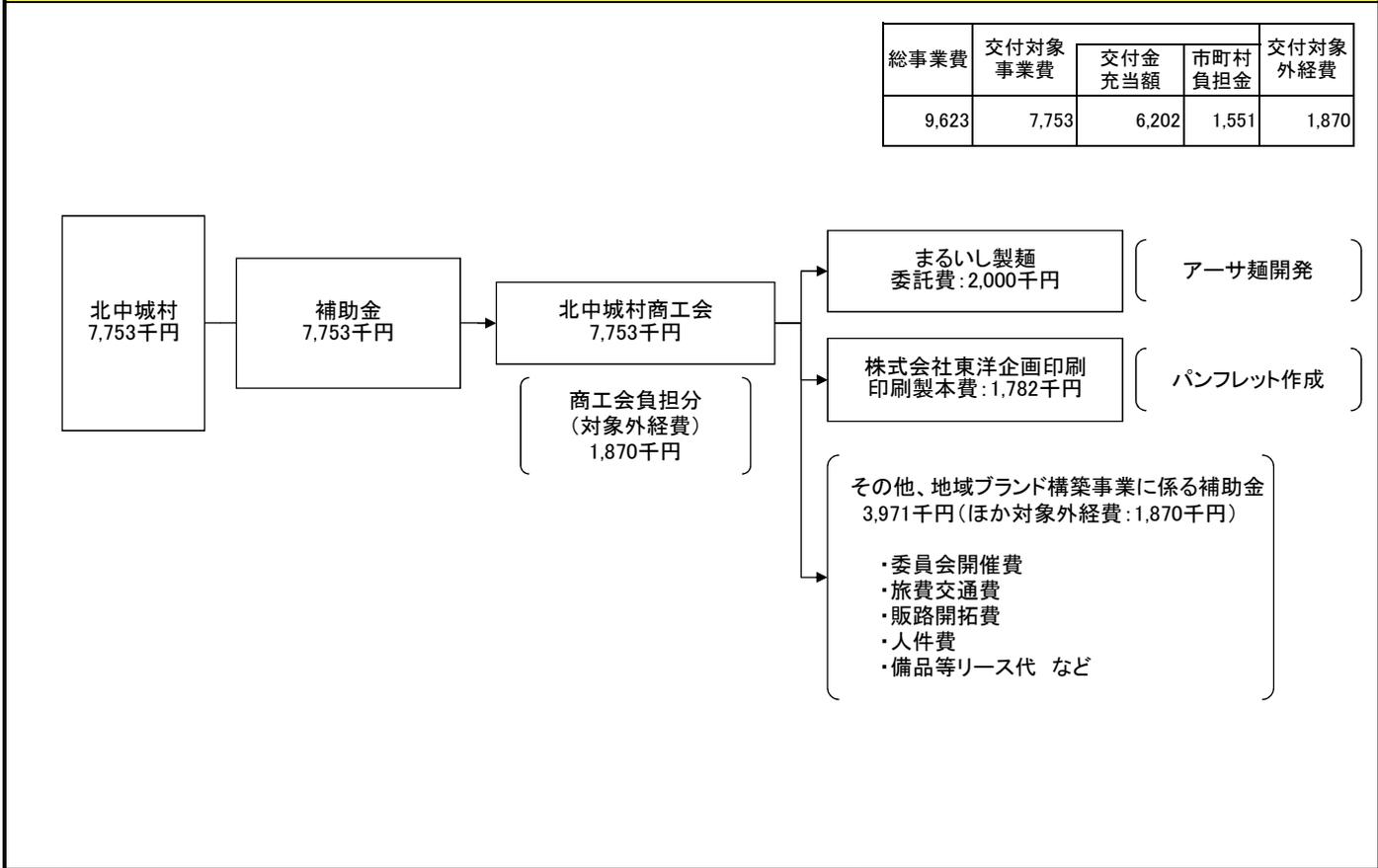
市町村名		北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-③	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部署名	企画振興課		事業実施 (予定)年度	平成24年～平成33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成		
事業内容	H26年度までに考案した商品のさらなるブラッシュアップを行うとともに、特産品と合わせて販売拡大や県外物産フェアへの出店を行う。また、村内事業所の自主性を高めるために公募型の商品開発も行い、地域ブランド発信事業者を増やす取り組みを行う。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	35,152			19,800	16,200	9,440
		(b) 予算現額	35,152			29,700	22,032	10,488
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	9,900	5,832	1,048	
		(d) 繰越額		25,232				
		A. 計 (b+d)	35,152	25,232	29,700	22,032	10,488	
	B. 執行済額		9,919	25,007	27,488	19,247	7,753	
	うち交付金充当額		7,935	20,005	21,990	15,397	6,202	
	次年度繰越額		25,232	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		28.2%	99.1%	92.6%	87.4%	73.9%	
予算の状況の説明		不要額864千円については、当初計画の一部変更に伴う補助額変更であり、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	公募型商品開発の募集	目標	(4回)	(5回)	(5回)	(公募型商品開発の募集)		
		実績	4回	4回	5回	募集なし		
	県外商談(1回)	目標	(2回)	(2回)	(2回)	(1回)		
		実績	2回	3回	3回	2回		
	PR活動回数(2回)	目標	(2回)	(2回)	(2回)	(2回)		
実績		2回	3回	3回	2回			
パンフレット作成(2万部)	目標	()	()	(30,000部)	(20,000部)			
	実績			77,000部	10,000部			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・公募型商品開発の募集については、原材料となるアーサ麵の製造が遅れ十分な公募期間を確保できず、次年度実施する事とした。 ・県外では東京での北中城村物産展開催及び全国物産展へ参加、当事業での開発商品を中心に販売活動を行った。 ・県内では村まじりの出店や沖縄の産業まつりへの参加、今年度開発したアーサ麵のテスト販売を行った。 ・村特産品であるアーサについてのパンフレットを当事業での成果報告を兼ねる形で作成し配布。ページ数を増し、予算に合わせ発行部数を減した。 							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (30年度)	
	販路拡大の為の県外物産展参加 (販売額目標40万円)	目標	()	(400千円)	(400千円)	(400千円)	(400千円)	
		実績		846千円	457千円	775千円		
	新商品の開発4アイテム	目標	()	(3品)	(2品)	(4品)	(計15品)	
		実績		7品	4品	1品		
	ポータルサイトアクセス数10%増	目標	()	(-)	(66,000)	(10%増)	(129,000)	
		実績		60,000	163,000	5.5%増		
	【参考指標】 北中城村ブランド商品販売額(食品類)	目標	()	(600千円)	(1,200千円)	(1,500千円)	(2,500千円)	
実績			205千円	1,546千円	4,686千円			
【参考指標】 北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)	目標	()	(100千円)	(200千円)	(500千円)	(800千円)		
	実績		10千円	800千円	1,000千円			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・県外フェアではアーサそばが販売を牽引(430千円)、ほかアーサ関連商品(167千円)、アクセサリ類(77千円)と続き目標194%達成。 ・量販店より取引契約に係る問い合わせがあったが、量販店側が求める数の提供をできないため契約を断念した。 ・新商品の開発については原材料となるアーサ麵の開発および試験販売・メニューの試作に留まり、新商品販売には至らなかった。 ・ポータルサイトのアクセス数は伸びてはいるが前年比5.5%増と微増に留まっている。 							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ●北中城村ブランド商品販売について <ul style="list-style-type: none"> ・過年度にて、当事業で開発を進めてきた商品類の販売が堅調 ・一部製品は事業者側の都合によりやむを得ず減産したものもある ・H26開発飲食メニューが好売(3,060千円)、うち1製品が2,400千円売上 ・H27開発のアーサ麺がテスト販売にもかかわらず911千円と好調 ●量販店との取引契約について <ul style="list-style-type: none"> ・商談はあったものの、供給能力がバイヤーの要求に及ばず断念した ●新商品開発について <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ麺の開発・試験販売を実施したが事業者展開には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●北中城ブランド商品販売について <ul style="list-style-type: none"> ・今年度開発した商品を含め、商品改良及び販路拡大に注力することにより、更なる販売額の増進やブランド化を推進する事が可能であると考えられる。また、特に好調な飲食店でのメニューを参考に、他店舗へも横展開し、単独店舗のみではなく、村全体の飲食産業が盛り上がるよう事業を推進する。 ●量販店との取引契約について <ul style="list-style-type: none"> ・特に大型チェーンの場合、求められる製造数が多くなり、供給能力が追いつかず商談が成立しないケースがあった。以後も事業者側が過剰な負担にならないよう注視しながら支援していく。 ●新商品開発について <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ麺は試験販売においては概ね好評を得ることができた。これをベースに各事業所が新メニューの開発を実施できるよう、事業者展開に注力し事業を推進する。また、当商品を一般販売できる体制についての検討も平衡して進めていくことにより、更なる販売額の増進やブランド化を推進する事が可能であると考えられる。

今後の取り組み方針

- 北中城ブランド商品販売について
 - ・当事業内に留まらず、他事業(特に観光情報発信拠点推進事業)とも連携し、販路拡大やPRを行い販売額の増進やブランド化推進に努める。
 - ・飲食店における北中城村ブランドメニューの開発が更に盛り上がるよう、事業者向けのセミナーを実施する事により、民間による地域ブランド開発を促進する。
- 量販店との取引契約について
 - ・例年に引き続き量販店との取引契約成立を目標としながらも、事業者側の過負担にならないよう注視。販路開拓セミナー等と合わせ慎重に進めていく。
- 新商品開発について
 - ・民間の飲食店におけるアーサ麺をベースとした新メニューの開発を促進する。具体的には原材料の提供やPR活動の支援などに努める。
- ポータルサイトについて
 - ・現在の地域ブランドを推進するためのポータルサイトの役割は観光情報発信拠点推進事業での観光ポータルサイトの枠組みに組み込むことにする。
 - ・上記により管理コストの削減やアクセシビリティの向上につながり、結果として当事業の目的であるブランド化を推進するものとなる。
 - ・これまでの取組みを有益にするためにもドメイン名は当事業において取得しブランド化を推進してきた「kitapo.jp」を引き続き使用することとする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○商工会を中心とすることで地域事業者が安心して事業に係ることができるところから、活性化に対する補助とした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については事業計画に即した予算計上がなされ、計画に即して予算執行がなされている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担も10%以上あり、妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

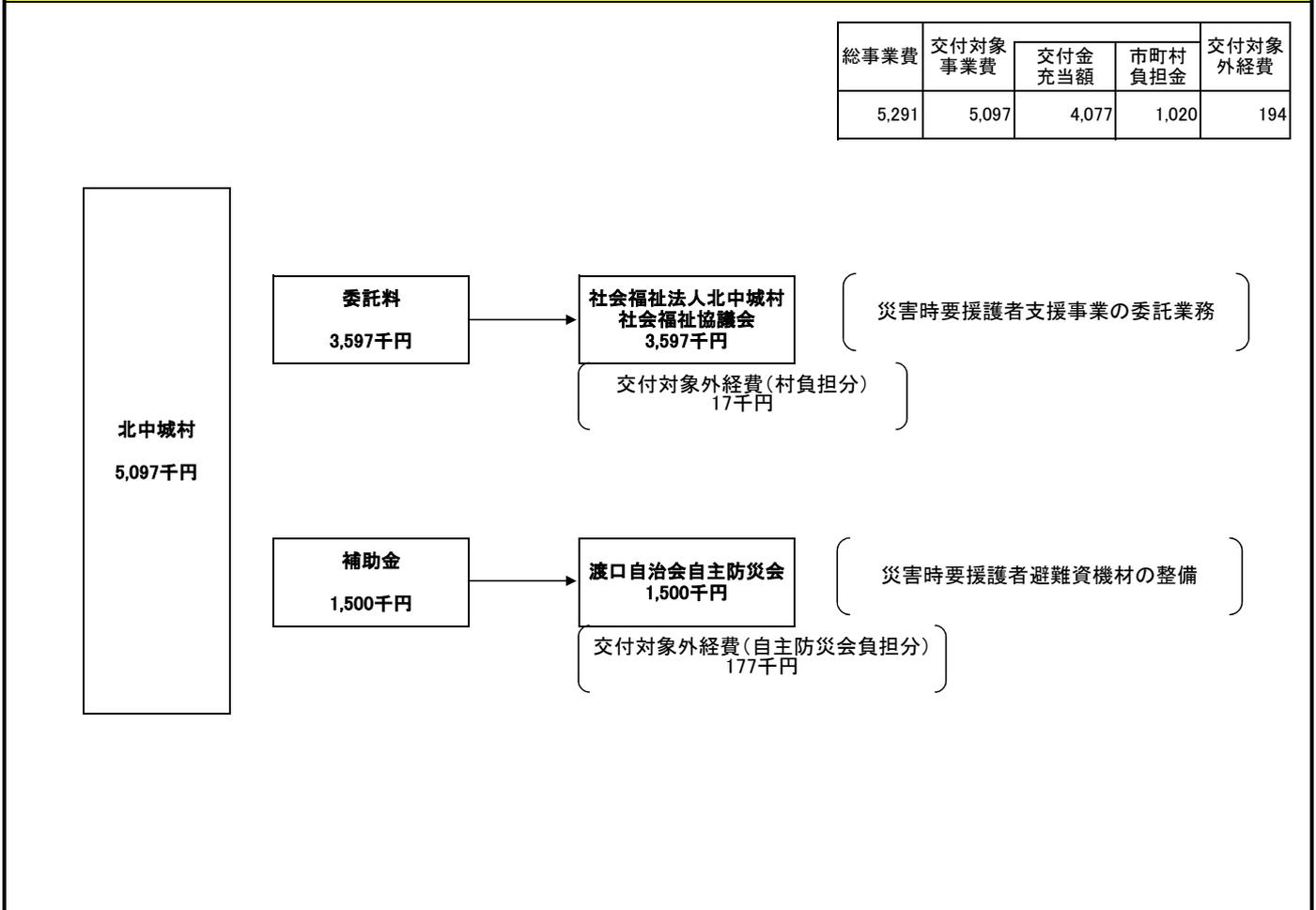
市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	災害時要援護者避難支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部署名	福祉課	事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 Ⅲ-10-(2)	
事業内容	観光客を含む災害時要援護者の円滑な避難を図るため、避難支援事業及び自主防災組織等への災害時の要援護者支援に活用する防災資機材を整備し支援体制の整備強化を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)	3,985	11,000	4,704	5,054		
		3,985	11,000	4,704	5,204		
		0	0	0	150		
		0	0	0	0		
		3,985	11,000	4,704	5,204		
	B. 執行済額		3,320	8,597	4,674	5,096	
	うち交付金充当額		2,655	6,877	3,739	4,077	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		83.3%	78.2%	99.4%	97.9%	
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。不要額108千円については、需用費及び人件費(社会保険料)の減等によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27年度活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	要援護者個別支援計画の新規策定件数:30件	目標	(10件)	(30件)	(30件)	()	
		実績	5件	24件	44件		
	自主防災組織設立:1団体	目標	(—)	(2団体)	(1団体)	()	
		実績	—	1団体	1団体		
防災資機材整備:1団体	目標	(—)	(2団体)	(1団体)	()		
	実績	—	1団体	1団体			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 要援護者個別支援計画の新規策定については、事業コーディネーターを中心に自治会や各地区事業と連携を図り、目標とする新規作成件数を達成することができた。 沿岸モデル地区において自主防災組織の設立支援を行い1団体設立。また、要援護者避難支援資機材の整備も実施することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27年度成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	災害時要援護者支援体制の強化	目標	()	要援護者支援体制の整備・強化	要援護者支援体制の整備・強化	()	()
		実績		要援護者支援体制の整備・強化	要援護者支援体制の整備・強化		
	進捗状況説明	要援護者への個別支援計画の策定件数を増やし、互助・共助による支援体制の核となる自主防災組織の設立支援と要援護者の避難支援資機材を整備を行うことで、災害時要援護者支援体制の強化を行うことができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸地区を中心に地区単位の防災訓練等を実施してきた。災害時避難行動要支援者(要援護者)本人やその家族への事業の趣旨を伝えることで、新規による個別支援計画の増加に寄与できたと考える。 住民に対し、地域の互助による要援護者支援に取り組み、意識向上を図るなかで、自主防災組織の必要性を感じてもらえるよう支援した。 自主防災組織の設立に合わせ、避難資機材の整備補助金を活用することが、より事業の推進に寄与できたと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規の個別計画策定者数の増加に取り組んでいるが、計画策定が済んだ要援護者の支援体制の強化を図る必要がある。そのためには、地域住民だけでなく、ケアマネージャーなど要援護者に関わる専門職種との連携にも力を入れていく必要がある。 引き続き、既存の自主防災組織において、地区内の要援護者の具体的な支援方法について検討し、訓練を重ねていく支援が必要である。 地震津波災害対応を中心に沿岸モデル地区を選定していたが、熊本地震による群発地震への備えを求める声もあり、モデル地区の拡大を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

- 引き続き、災害時要援護者の個別支援計画の策定をすすめていき、同計画策定済みの方々への支援内容の見直し・強化に取り組んでいく。
- 新規の自主防災組織設立を支援し、避難資機材の整備も継続していく。既存の自主防災組織における個別の要援護者支援の方法の検証や、訓練を実施していく。
- これまでの沿岸地区に加え、内陸の地区への自主防災組織設立に向けた支援にも取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先選定については、実績等勘案した上で選定しており、妥当であると考えます。また、補助団体選定については、村要綱に基づき、妥当であると考えます。 ○補助団体は、総事業費の1割を負担しており、公益的な事業内容等であることから負担割合は妥当であった。 ○予算規模や費目・使途が事業目的に則し、妥当であると考えます。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

資金の流れ、費目・使途の点検評価

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	全村植物公苑化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ	
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	花と緑あふれる県土の形成 Ⅲ-10-(1)	
事業内容	本村のまちづくりの基本目標の1つである「全村植物公苑づくり」のもと、村全体を植物公苑とみため、観光拠点周辺の地域緑化を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,054	9,497	9,497	9,497	
		(b) 予算現額	6,054	9,497	9,497	7,725	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 1,772	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		6,054	9,497	9,497	7,725	
	B. 執行済額		5,491	8,349	8,397	7,508	
	うち交付金充当額		4,392	6,679	6,717	6,006	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		90.7%	87.9%	88.4%	97.2%	
予算の状況の説明		不用額217千円については、原材料費等による不用額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	村内主要道路の美化・緑化実施 2,000㎡	目標	(1,600)	(2000)	公共、観光施設及び村内主要道路の景観美化・緑化の実施	村内主要道路の美化・緑化実施 2,000㎡	
		実績	1637	2251	公共、観光施設及び村内主要道路の景観美化・緑化の実施	村内主要道路の美化・緑化実施 2,000㎡	
達成状況説明	これまでに実施した箇所の枝打ち及び植替え等や、新しく花壇の作成をし、北中城村の花木であるブーゲンビレアや沖縄らしいハイビスカス等を主要道路周辺に植栽し美化・緑化活動を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	村内を訪れる観光客、来村者へ快適な環境を提供	目標	()	(2,000㎡)	(2,000㎡)	観光客、来村者への快適な環境を提供	()
		実績		2,251㎡	2,000㎡	観光客、来村者への快適な環境を提供した	
進捗状況説明	主要道路周辺に村の花木(ブーゲンビレア)や、沖縄県らしい花木(ハイビスカス)等を植栽し、観光客や来村者へ快適な環境を提供できた。						

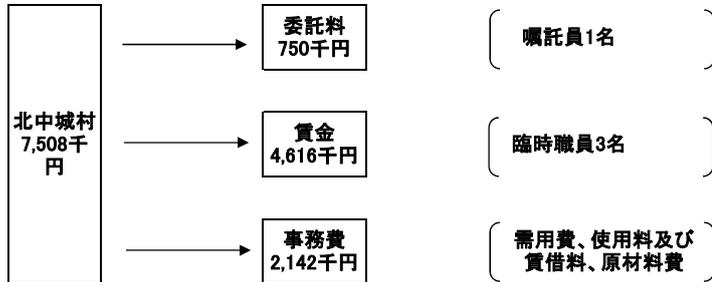
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	定期的な剪定等を行わなければ、景観を損ねるおそれがあり、事業を進めるにあたり注意が必要であった。また、本事業で設置した花壇や植栽柵等へ植えつけた花木等の管理を各地域・各団体へ依頼。その後の定期的な見回り等を行う必要がある。	剪定の必要性がある花木を植えつけるより、花などを植えつけたほうがよりカラフルで、景観の観点から考えるとより効果的だったが、花木ではなく花を植えつけた場合はあまり花が長持ちしなかったり、定期的な植替え及び花苗購入費用などがかかり難しい部分もあった。今後は費用面等を改善するにあたり、花苗の提供を村緑化推進委員会等に依頼したいと考える。

今後の取り組み方針

村緑化推進委員会より花苗や花木を自治会へ年3回程度提供できるようにし、花壇等へ植付を依頼する。また、花壇の維持管理(水やり、雑草処理、植付)については自治会へ依頼し、地域を巻き込んだ全村植物公苑を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,508	7,508	6,006	1,502	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は嘱託料、賃金、事務費等であり妥当だった。 ○予算規模に関しては、嘱託職員及び臨時職員の退職等で不用額が1,989千円発生したが、妥当であった。 ○費目・使徒に関しては、花苗の購入や、土・肥料等の購入、花壇作成に係る原材料費などであったため必要であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②		公共施設等エコアクション推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
	担当部署名	建設課		事業実施(予定)年度		平成24年度～34年度	沖縄振興基本方針該当箇所
事業内容		北中城村全体でCO2削減に向けたエコアクションの先駆けとして、省エネルギー化のため、村道へのLED新設と、自治会管理の既存照明機器等をLEDへ切り替えを行う。					Ⅲ-10-(1)
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				24年度(繰越)	25年度	26年度	26年度(繰越)
	予算の状況	(a) 当初予算額	-	37,933	39,700	-	17,180
		(b) 予算現額	-	24,083	42,840	-	16,837
		(c) 増減額(b-a)	-	▲ 13,850	3,140	-	▲ 343
		(d) 繰越額	56,851	-		27,866	0
	A. 計(b+d)		56,851	24,083	42,840	27,866	16,837
	B. 執行済額		29,394	21,529	14,974	24,851	16,837
	うち交付金充当額		23,515	17,223	11,979	19,881	13,469
	次年度繰越額				27,866	-	
	執行率(%) (B/A)		51.7%	89.4%	35.0%	89.2%	100.0%
予算の状況の説明		LED街灯設置工事において入札残が生じたため、予算の343千円減額した。既設蛍光灯街灯をLEDへの取替については計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	LED街灯設置(6箇所)	目標	(6箇所)	()	()	()	
		実績	5箇所				
	既存蛍光灯街灯をLEDへ切替え(741箇所)	目標	(741箇所)	()	()	()	
		実績	350箇所				
自治会単位でのエコ活動の普及	目標	(エコ活動の普及)	()	()	()		
	実績	エコ活動の普及					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> LED街灯について6箇所設置を目標としていたが、単価入れ替え等による設計額の増額により工事費が不足したため、1箇所減の5箇所設置とした。 自治会管理の既存防犯灯(蛍光灯タイプ)全741箇所をH27年度から2年をかけて取り替える予定であるが、その内、H27年度においては350箇所をLED防犯灯へ取替えることが出来た。 役場で毎月実施している区長会でLED化の説明等を行いエコ活動の普及に努めた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	実施箇所の自治会(自治会長)へアンケートを実施し、LED化への取組の評価(賛同75%以上)	目標	()	(75%以上)	()	()	()
		実績		100%			
	各自治会施設内でのLED切り替え自治会数(14自治会のうち5自治会)	目標	()	(5自治会)	()	()	()
実績			14自治会				
進捗状況説明	27年度では350基の既設防犯灯のLED化を実施した。今年度引き続き、未取替の391基についてLED化を推進していく。また、村内全体に普及活動を広めるため、当初5自治会へのLED切り替え実施としていたが、14の全自治会への取替えを行い、LED化への取り組み評価として100%の賛同を得た。						

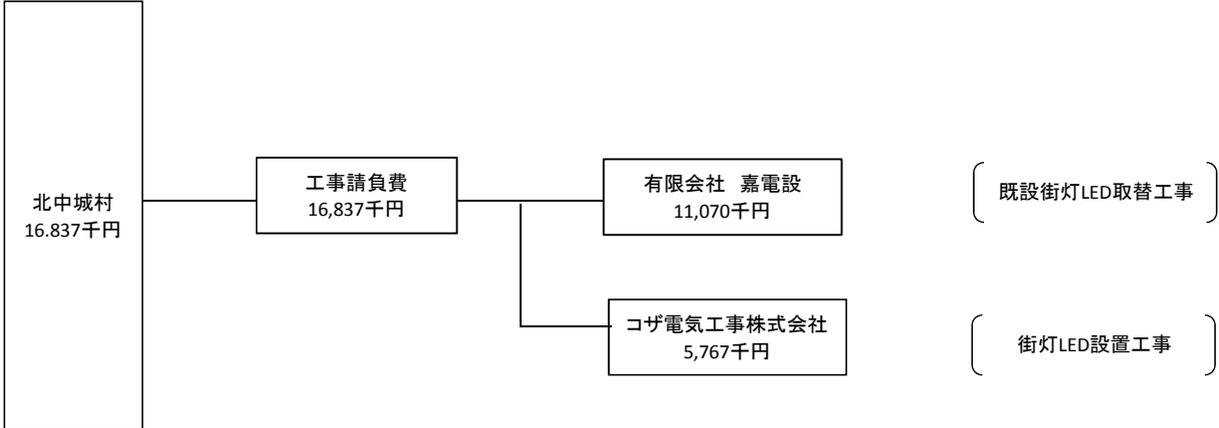
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	自治会管理の防犯灯や村道沿いの街灯をLEDに取り替えることで、消費電力を抑えることによる省エネルギー化とCO2の排出抑制による環境への負荷を軽減することができた。	・北中城村は、都市部に近接しながら「全村植物公苑づくり」を軸とした、環境へ与える負荷を低減するまちづくりに取り組んでいることから、後年度においても残りの防犯灯(約391基)や村道仲順比嘉線(L=1,200m)のLED化を進め、更なる環境への配慮に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

・既存の自治会管理による防犯灯(391灯)のLED化に取り組む。
 ・村道仲順比嘉線におけるアワセゴルフ場地区までの約1,200mの区間について、街灯LEDの設置に取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
16,837	16,837	13,469	3,368	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者とは指名競争入札を経て契約しており妥当であったと考える。 ・事業計画に基づき執行でき、予算規模は適正であった。 ・費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-①	総合英会話指導支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容
英語を母国語とする外国人や英会話能力の優れた講師による英会話指導を実施し、生きた英語に触れることで、外国語教育の充実と国際性豊かな人材育成を図る。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	4,212	6,552	6,552	6,552	
	(b) 予算現額	4,212	6,552	6,360	6,497	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 192	▲ 55	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	4,212	6,552	6,360	6,497	
	B. 執行済額	4,110	6,330	6,322	5,438	
	うち交付金充当額	3,288	5,064	5,057	4,350	
	次年度繰越額					
	執行率 (%) (B/A)	97.6%	96.6%	99.4%	83.7%	
予算の状況の説明	勤務日数や個々の賃金の差により、1,059千円の執行残があるが、概ね計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
		英会話指導員配置数 小学校:1人 中学校:1人 幼小兼務:1人	目標 (3人)	(3人)	(3人)
	実績	3人	3人	3人	3人
達成状況説明	村立小中学校すべてに指導員を配置することができたことで、円滑に事業を実施することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
		英語検定合格率の向上 (H26:54%→H27:55%)	目標 ()	(53%)	(54%)	(55%)
		実績	58%	57%	51%	
	英語検定の受検促進 (H26:348人→H27:380人)	目標 ()	()	()	(380人)	()
		実績		348人	401人	
進捗状況説明	生きた英語に触れることで、生徒の英語に対する関心度が高まり、英語検定の受検者数については成果目標を達成することができたが、その反面、幅広い層の生徒が挑戦することで合格率については、昨年度を下回ることとなった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>ネイティブスピーカーによる生きた英語を体験することで、幼稚園・小学校では英会話を楽しむ素地を養い、中学校で「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の向上への取り組みが図られた。実際に、英語検定の受験者数が昨年度より15%増加するなど、英語に対する関心が増しており、事業の浸透が図られている。一方で、英語検定の合格率が昨年度を下回り目標値を達成することが出来なかったため、今後の課題として語学力の底上げが挙げられる。</p>	<p>・英語担当教諭と英会話指導員が集まる頻度を上げ、指導方法等についての意見交換や情報交換を行うことで、個々の指導力の向上を図る必要がある。</p> <p>・専門的見地から指導・助言を行える講師を招聘し、指導力向上に向けた取り組みを行う必要がある。</p>

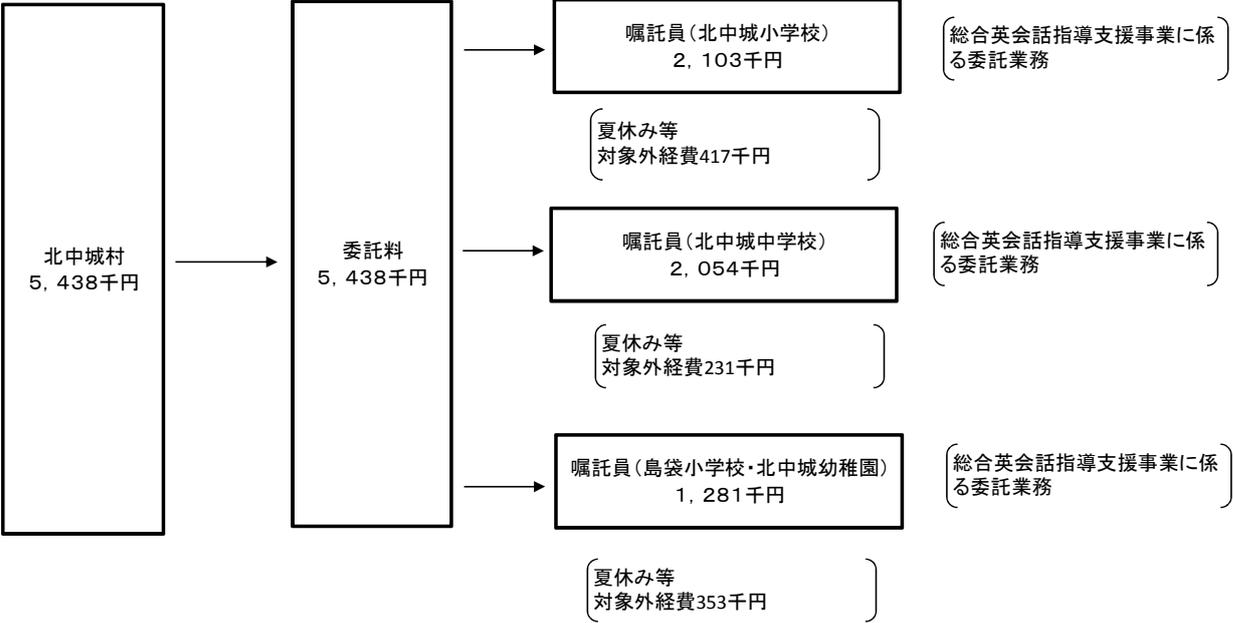
今後の取り組み方針

・各学期に1回ずつ研修会を開催し、英語担当教諭と指導員が集まる機会を設け、各学校の取り組みや指導方法の情報交換を行うことで指導力改善を図る。

・沖縄女子短期大学との連携協定を活用し、英語教育に精通した講師を招聘し研修会を開催することで、指導力の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,439	5,438	4,350	1,088	1,001



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は英語を母国語とする外国人を積極的に採用。面接による選考を行い、指導力等を判断しているため妥当であると考えられる。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途は事業目的に即したものであり適切であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②	アメリカ教育機関ネットワーク形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	H24年度～H33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	WEBシステムによるライブ授業を開設し、小学生の高学年から中学生を中心に米国のワシントン州立大学教員による集中講座を行い、英会話力・英作文力・英文読解力を習得させ、国際化社会に対応できるような人材を育成する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,206	4,755	4,755	6,553	
		(b) 予算現額	4,318	4,755	4,755	6,553	
		(c) 増減額 (b-a)	112	0	0	0	
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)		4,318	4,755	4,755	6,553	
	B. 執行済額		3,697	4,685	3,817	5,430	
	うち交付金充当額		2,957	3,747	3,053	4,344	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		85.6%	98.5%	80.3%	82.9%	
予算の状況の説明		不要額760千円は執行残56千円と受講料704千円充当によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	小学生クラス:64回 (前期32回・後期32回)	目標	(小学生講座30回)	(小学生講座64回)	(小学生講座64回)	(小学生講座64回)	
		実績	小学生講座29回	小学生講座64	小学生講座64回	小学生講座64回	
	中学生クラス:64回 (前期32回・後期32回)	目標	(中学生講座30回)	(中学生講座64回)	(中学生講座64回)	(中・高生講座64回)	
		実績	中学生講座30回	中学生講座64回	中学生講座64回	中・高生講座64回	
達成状況説明	小学生講座及び中・校生講座ともに開催回数を達成したことで、児童生徒の英語力向上が図られ、本村の国際性に富む人材育成へ向け生徒自身の意識を高めることが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	英会話力・英作文力・英文読解力の習得 ・基礎英語レベル1修了:7名 ・基礎英語レベル2A修了:5名 ・基礎英語レベル2修了:12名	目標	()	(レベル1修了:7名 レベル2A修了:5名 レベル2修了:12名)	()	()	()
		実績		レベル1修了:6名 レベル2A修了:4名 レベル2修了:10名			
	進捗状況説明	講座開催4年目においては、小学生クラスで英語力の劣っている生徒たちに対して、ALTによる学習指導を行い、他の生徒たちとの英語力のバラつきを抑えた。受講生たちの学習意欲も見られ、授業での発言も積極的であり英語力の習得に勢いがある。コミュニケーションスキルの向上と、TOEFL試験でのスコアアップが期待される。実績人数については前期で2名、後期で2名の生徒が講座受講を止めたため減となった。					

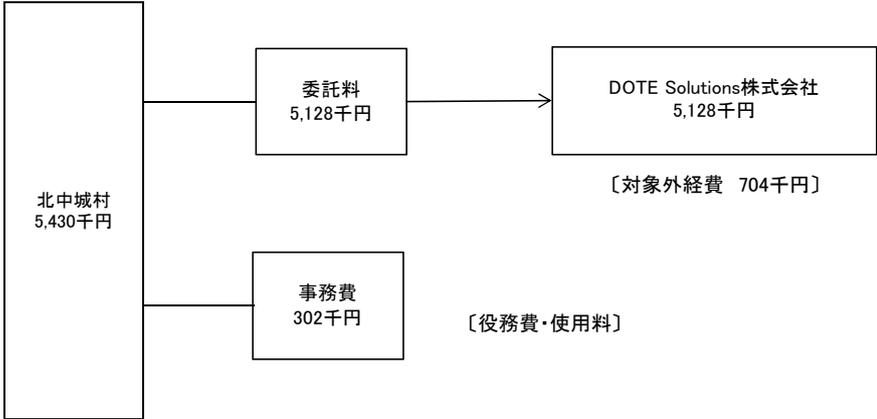
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、学校行事や個人的理由等により、講座に参加できない生徒や授業で遅れをとっている生徒がいる。 ・新年度に新規の生徒が加入する場合、能力に応じてクラス分けを行っているが、継続している生徒と比較し、英語力に大きな差がある場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の欠席に関しては、引き続き休講の報告を義務づけ、必要に応じて小テストや欠席した分の補習を行うことで対応する。 ・新年度に新しい生徒が加入する場合、必要に応じてALTが補習を実施する。

今後の取り組み方針

今後、講義のレベルを米国のESLクラス(英語集中講義)レベルに近づけながらも、ALTの授業サポートや補習等を充実させ、生徒の英語力・理解力のバラつきを抑えるよう取り組む。引き続き、出席状況等の総合的評価に加え、定期テスト等の絶対評価により生徒個人の能力を評価していく。また、生徒へ講座を受講する目的意識を明確にさせ、より積極的に講義に参加させるよう意識の高揚を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
6,134	5,430	4,344	1,086	704



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・米国ワシントン州立大学とのインターネットを介しての講座は、自治体としては初めての試みであり、当該法人は大学との交渉、契約等を県内で唯一行える委託先として随意契約としており妥当であると考え ・予算規模は事業内容より見積を取っており適正であった。 ・費目・使途については、大学へ支払う受講料、人件費、米国の交渉等に係る費用として適正であると考え
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-③	海外子弟青年交流事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-7
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	国際社会、情報社会に対応した教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容
 友好親善と国際交流の推進を図るため、本村出身者が多く経済発展を遂げている南米3カ国(ペルー、アルゼンチン、ブラジル)及び交流可能な海外村人会に研修生を派遣する。また、世代交代が進行する海外子弟の青年に、沖縄の文化・伝統芸能の習得によるウチナーンチュとしてのルーツを再確認してもらうとともに、本村及び研修生を交えた「交流ネットワーク会議」を立ち上げ海外と本村を結びつけ橋となる人材育成を図る。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	3,712	2,246	4,838	4,413	
	(b) 予算現額	3,712	2,246	4,838	4,189	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 224	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)	3,712	2,246	4,838	4,189	
	B. 執行済額	3,192	959	3,456	3,733	
	うち交付金充当額	2,553	767	2,765	3,451	
	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)	86.0%	42.7%	71.4%	89.1%	
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・予算減額224千円について海外移住者子弟受入事業が執行済み(11月末時点)であったため12月補正にて支払予定のない経費を減額した。 ・不用額456千円については需要費の消耗品数量の減や役務費の郵便数の減などによるものである。 					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
・海外子弟受入人数:3人 ・海外村人会派遣:2人	目標	(3人)	(受入:3人 派遣:2人)	()	()
	実績	3人	受入:3人 派遣:2人		
	目標	()	(2回)	()	()
	実績		2回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流として派遣のみではなく、海外子弟受入事業を追加しており、海外子弟受入3人、海外村人会派遣2人の研修生へ各村人会と本村を結びつける人材育成を行うことができた。 ・海外村人会に2名を派遣し、海外村人会から3名を海外子弟とし受け入れることで、本村と海外村人会とを結びつける人材育成を行うことができた。 				

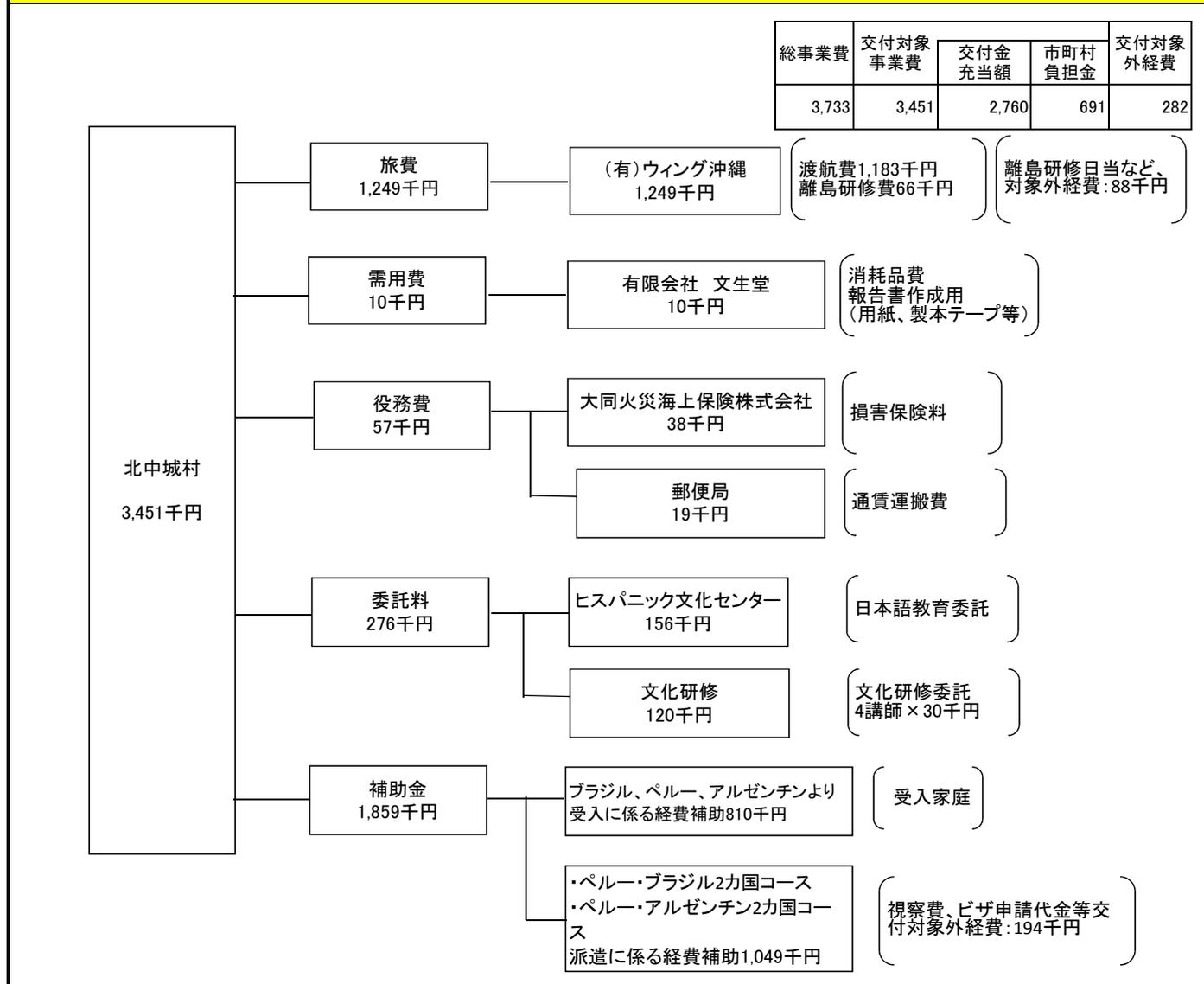
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	27年度
		目標	(3人)	(-)	(-)	(3人)
	(受入者)現地村人会の活性化に寄与する		—	—	3人	活性化に寄与
	実績					
	目標	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)	(交流の場の構築)
	(派遣者)友好親善の推進を図るため、受入生と派遣生(過年度派遣生も含む)とで交流の場を構築する		2人	2人	2人	交流の場の構築(4回)
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・海外子弟受入者は沖縄の文化・習慣を体験するとともに、村民との交流を深めることができた。また現地村人会での報告会を経て、今後の海外子弟受入事業の指導的役割を担う立場としての意識付けができた。 ・海外村人会派遣生については、訪問前から海外子弟受入生と交流を通して海外滞在への不安を取り除くなど効果的に人材育成を図ることができた。また、帰国後もSNS等を通じ、継続して交流を図っていることから、本事業が現地村人会の活性化に寄与しているものとする。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 受入事業については、移住者子弟の世代交代が進む中で、受入研修生の日本語能力の低下に苦慮している。現地村人会において、日本語能力の低下が進むと研修の遂行に大きな支障が出るため早急な対応が必要である。 派遣事業の現状は、村人会へ研修内容を依頼しているが、上記と同様、言語のニュアンスの違い(日本語能力の低下)により伝わりにくい点があり、調整に苦慮したことから、お互いの目標を再確認する必要がある。 海外子弟受入者の受入先や受入方法について、その親戚家庭が役割を担ってきたが、高齢ということで受入先を探すことが困難となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修内容の充実を図るため、現地村人会へ職員を派遣し、現地での人材育成を協議する場を設ける等の検討が必要である。 海外村人会派遣生の活動内容は、海外子弟受入生が村民との交流を通して一世代の軌跡について学び、所期の目的を達成することができるよう協力するとともに、次の海外村人会派遣生への助言する交流の強化が必要である。 本年度において、本事業に賛同する団体や個人が、組織を結成し、受入環境の体制整備を行うことができたが、登録会員数がまだまだ少ないことから組織拡大の取組みが必要である。

今後の取り組み方針

・現在では北中城村(沖縄)を知らない若い世代(海外子弟)と、移住を知らない北中城村(沖縄)の若い世代へと世代交代が進む中、今後も引き続き次世代へ沖縄アイデンティティーを継承し、南米3カ国と本村を結ぶ懸け橋となる人材育成を図っていく。
 ・平成27年度には、北中城村ウチナーンチュネットワークを担う「結の会(本目的に賛同する団体や個人の組織)」を結成したことから、平成28年度に予定されている「世界のウチナーンチュ大会」を機に、更なる交流促進・本会会員数の拡大に向け、幅広い世代への情報発信・プロモーション強化にに取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目、 用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は北中城村契約規則に基づき随意契約で選定しているので妥当であると考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であるため適正な規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業の主旨に鑑み、受益者(研修生)に対し、研修に必要な費用(滞在費・旅費等)のみを補助対象としているため事業目的に必要な経費となっている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○用途について、精算段階で検査を実施しており、事業目的に必要な費用となっている。

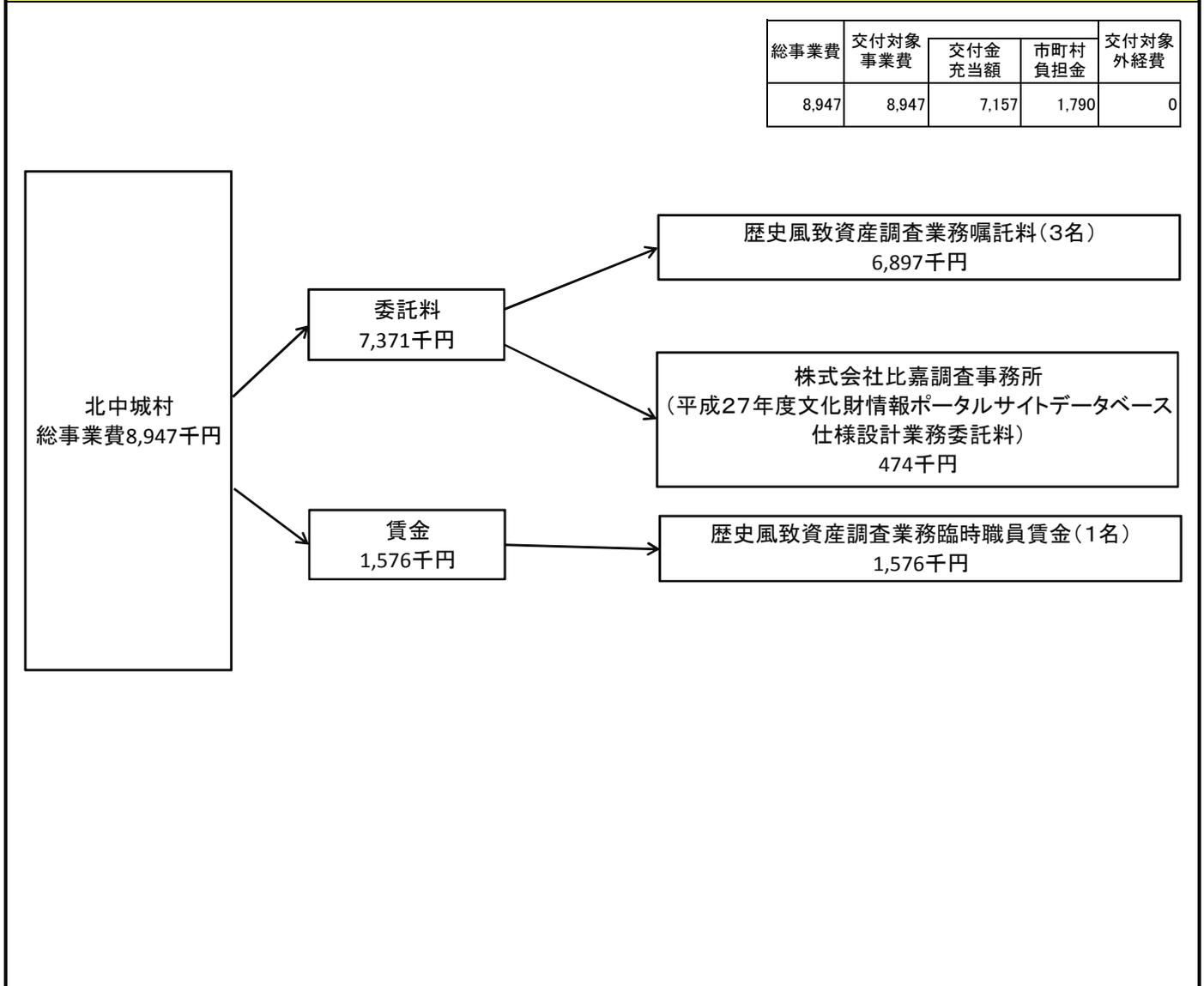
市町村名		北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	8-①	琉球歴史風致資産調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24年度～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)			
事業内容	<p>過年度調査分の歴史風致資産について、より詳細な情報を収集・記述するため、文献資料による補足調査を行うとともに、村内で行われている伝統的な民俗祭祀行事について、専門的見地から内容を記録・解説するため、映像記録の作成・編集、聞き取り調査及び関連史料の収集・分析を実施する。</p> <p>また、過年度整理分の民具等の収蔵台帳データベースをウェブを通して広く発信するために文化財情報ポータルサイト(仮)の仕様設計を実施する。</p>							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,420	22,226	23,315	9,459		
		(b) 予算現額	17,420	22,226	23,315	9,019		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 440		
		(d) 繰越額						
		A. 計 (b+d)	17,420	22,226	23,315	9,019		
	B. 執行済額		16,748	20,550	23,022	8,947		
	うち交付金充当額		13,398	16,439	18,418	7,157		
	次年度繰越額		0	0				
	執行率 (%) (B/A)		96.1%	92.5%	98.7%	99.2%		
予算の状況の説明		増減額▲400千円については、委託業務の発注内容の見直しを図ったことによるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	・過年度分補足調査→200箇所 ・民俗祭祀行事調査→20件	目標	現地調査:200件 (祭祀調査:5件) 図化・分析:10件	民俗祭祀行事 (及び現地調査) の実施	・過年度分補足調査→200箇所 ・民俗祭祀行事調査→20件	()		
		実績	現地調査:250件 祭祀調査:24件 図化・分析:12件	民俗祭祀行事及び 現地調査の実施	・過年度分補足調査:202件 ・民俗祭祀行事調査:20件			
	文化情報ポータルサイト(仮)の仕様検討		目標	()	()	(仕様検討)	()	
			実績			仕様設計の完了		
達成状況説明		・過年度分補足調査については、ほぼ目標通りの202件実施した。 ・民俗祭祀行事調査については、目標通りの20件を実施した。 ・文化財情報ポータルサイトについては、サイト内の検索機能の仕様の検討を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	・過年度分補足調査→歴史風致資産の情報発信及び歴史まちづくり計画策定作業への活用に向けた詳細資料の完成(200箇所分、進捗率42%) ・民俗祭祀行事調査→伝統祭祀の紹介解説へ向けた資料の完成(調査所見レポート20件、進捗率88%)	目標	()	現地調査:200件 祭祀調査:5件 図化・分析:10件	民俗祭祀行事及び現地調査の実施	過年度分補足調査:200件、進捗率42% 民俗祭祀行事調査:20件、進捗率88%	()	
		実績		現地調査:250件 祭祀調査:24件 図化・分析:12件	民俗祭祀行事及び現地調査の実施	過年度分補足調査:202件、進捗率42% 民俗祭祀行事調査:20件、進捗率88%		
	文化財情報ポータルサイト(仮)開設に向けた仕様設計の完成		目標	()	()	()	(仕様設計の検討)	()
			実績				仕様の検討と設計の完了	
	進捗状況説明		・過年度分補足調査→歴史風致資産の情報発信及び歴史まちづくり計画策定作業への活用に向けた詳細資料の作成について、202件達成することができた。 ・民俗祭祀行事調査→伝統祭祀の紹介解説へ向けた資料として、調査所見レポートの作成を20件完成することができた。 ・文化財情報ポータルサイト(仮)→サイト開設向け、データベース(検索)機能の仕様について検討し、設計を完了することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	過年度分補足調査に関しては、担当係で検討した構成・編集ルールに基づき、体系的・効率的に資料化作業を進めることができています。 民俗祭祀行事調査については、順調に数値目標(現地調査数)を達成してきているものの、現地調査を最優先で実施しているため、これらの記録類の整理、特に映像記録の監修・編集作業が後手にまわっている現状にである。	本パッケージの実施体制として、過年度分補足調査に嘱託員2名、民俗祭祀行事調査に嘱託員1名、臨時職員1名を担当として配置している。 民俗祭祀行事の現地調査については、上記全員で実施しているが、記録類の整理が担当嘱託員1名に集中している。そのため、特に映像記録の監修とそれを受けた編集作業に遅れが生じているため、パッケージの担当者間で全体作業の分担を見直し、作業を効率的に進める必要がある。

今後の取り組み方針

映像記録の監修については、過年度分補足調査担当と民俗祭祀行事調査担当間で分担・連携できるよう担任業務を見直す。
具体的には、パッケージ担当嘱託員3名で映像記録監修を分担してあたり、これに基づいた編集作業を促進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者とは複数見積もりにより最低価格提示者と契約しており妥当であったと考えている。(粗見積もり額が50万円以下の少額契約の見込みであったため、指名競争入札は実施しなかった。)
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模について、複数業者から委託仕様書にのっとり見積もりを徴した上で、最低価格を予算計上していることで適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を点検した結果、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-②	中城間切ノロ関係資料集作成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24年度～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	「中城間切ノロ関係資料集(仮)」の発刊に向け、これまで収集した資料及び調査成果をもとに、「島袋ノロ文書」の解説原稿及び本巻論述編の仮原稿を執筆し、また、上記原稿執筆にあたり必要な補足追加資料の収集も随時実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		1,673	2,456	2,654	2,473	
			1,673	2,456	2,654	2,473	
			0	0	0	0	
			1,673	2,456	2,654	2,473	
		B. 執行済額					
		1,470	2,256	2,604	2,378		
		うち交付金充当額					
		1,176	1,804	2,083	1,902		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)						
		87.9%	91.9%	98.1%	96.2%		
	予算の状況の説明 予算額に不用額が生じているのは、専門部会委員・調査執筆員の会議・調査欠席等によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・解説原稿(島袋ノロ文書解説)→50点 ・原稿執筆(論述部分)→6項目	目標	(ノロ関連現地調査3件)	(ノロ家関係者への聞き取り及び現地調査)	(解説原稿 50点 原稿執筆 6項目)	()	
		実績	ノロ関連現地調査 11箇所(件)	ノロ家系関係者への聞き取り及び現地調査	解説原稿 70点 原稿執筆 6項目		
	・原稿の方針・執筆内容に関する専門部会及び執筆者による合同検討会→3回	目標	()	()	(合同検討会の開催 3回)	()	
実績				合同検討会の開催 1回			
	達成状況説明	・専門部会及び調査執筆員による、原稿執筆方針・内容に関する検討会の開催について、当初3回を予定していたが、第1回目の会議で、議論検討がスムーズに進んだため1回の開催で完了し、原稿執筆を順調に進めることができた。この他、補足として、作業進捗の確認のための専門部会を単独で1回開催した。 ・解説原稿及び原稿の執筆については、順調に進捗し、活動指標を達成することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	歴史文化の発信へ向けた史料分析(資料集発刊等)の着実な実施 ・島袋ノロ文書解説原稿 50点(進捗率50%) ・論述部分における仮原稿 6項目(進捗率30%) ・原稿執筆方針・内容の決定	目標	()	ノロ関連現地調査3件	聞き取り調査10件 現地調査3件	解説原稿50点(進捗率50%) 仮原稿6項目(進捗率30%) 執筆方針・内容の決定	()
		実績			ノロ関連現地調査1 1箇所(件)	聞き取り調査15件 現地調査5件	解説原稿70点(進捗率100%) 仮原稿6項目(進捗率30%) 執筆方針・内容の決定済み
	進捗状況説明	・専門部会及び調査執筆員による検討会議を合同で開催したことにより、原稿執筆方針・内容をスムーズに決定することができた。 ・解説原稿の執筆については、専門部会において解説対象を全部で当初想定100点から70点と確定して作業を進めた結果、当初の目標を上回って達成することができた(解説原稿執筆の完了)。 ・原稿の執筆については、順調に進捗し、活動目標を達成することができた。					

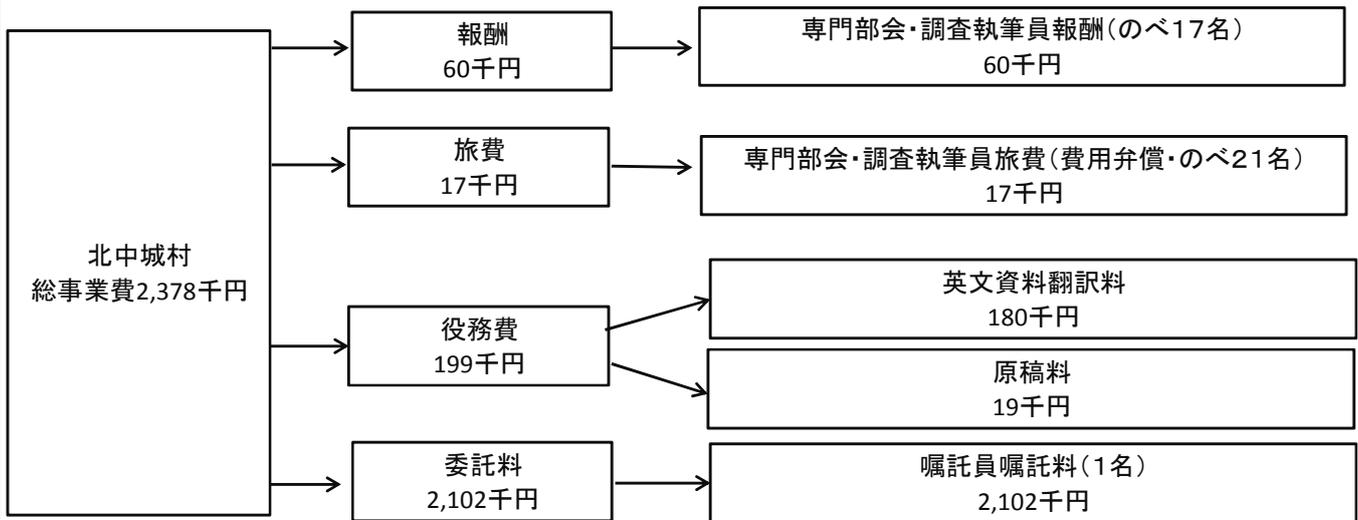
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	専門部会での検討において冊子の項目構成が確定したことにより、平成27年度より追加で調査執筆者を委嘱し、担当部分の原稿執筆を依頼することとなった。これにより、新規調査執筆者への各種対応が生じ、当初想定していた作業量が増加することとなった。	新規の調査執筆者については、これまで蓄積してきた成果を原稿へ反映させるため、レクチャーを丁寧に行う必要がある。また、当該調査執筆者の要望に応じて追加調査等も迅速に実施するとともに、作業スケジュールにはこれらの各種対応を念頭に置く必要がある。

今後の取り組み方針

仮原稿の執筆は、平成27年度完了分のほかに2項目を残しているため、関係資料の提供や追加調査の実施などに速やかに対応することにより、早めの原稿提出ができるよう調査執筆者を補佐していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,378	2,378	1,902	476	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先(業者)については、複数業見積りによる最低単価提示者に発注しているため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については、村規則等による単価等により積算しており、適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を点検した結果、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9-①		特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ		
	担当部課名	教育総務課		事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進	
事業内容		私立幼稚園、小学校、中学校に在籍し、障害を持った子や発達が気になる子に対し、身辺自立の介助や対人関係の手助け、学習補助などの支援を行うことで、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みづくりを図る。						
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(a) 当初予算額		29,568	29,429	29,430		
		(b) 予算現額		29,497	26,319	26,607		
		(c) 増減額 (b-a)		▲ 71	▲ 3,110	▲ 2,823		
		(d) 繰越額		0	0	0		
		A. 計 (b+d)		29,497	26,319	26,607		
		B. 執行済額		28,077	26,277	25,704		
		うち交付金充当額		22,461	21,021	20,563		
		次年度繰越額						
		執行率 (%) (B/A)		95.2%	99.8%	96.6%		
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	特別支援教育支援員配置数 小学校:11名 中学校:4名 幼稚園:4名	目標	(小学校:10名 中学校:6名 幼稚園:4名)	(小学校:11名 中学校:4名 幼稚園:4名)	(小学校:11名 中学校:4名 幼稚園:4名)	()		
		実績	小学校:10名 中学校:6名 幼稚園:4名	小学校:11名 中学校:4名 幼稚園:4名	小学校:11名 中学校:4名 幼稚園:3名			
達成状況説明	幼稚園で途中退職による補充が困難となったものの、小学校及び中学校では必要とされる支援員の配置ができたことから、目標を概ね達成することができた。障害を持つ子や発達が気になる子と他の子ども達分け隔てなく、地域で教育を受ける機会を作ることが可能となり、教育環境の充実が図られた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	支援を必要とする幼児児童生徒へのきめ細かな支援体制の構築	目標	()	小:18名 中:15名 幼:8名	小:32名 中:7名 幼:9名	きめ細かな支援体制の構築	()	
		実績	/	小:15名 中:15名 幼:8名	小:28名 中:7名 幼:7名	きめ細かな支援体制の確立		
	障がいのある者とないが共に学ぶ環境づくりの整備	目標	()	()	()	(障がいのある者とないが共に学ぶ環境づくりの整備)	()	
		実績	/			障がいのある者とないが共に学ぶ環境づくりの整備		
	進捗状況説明	・中学校では、支援員が1対1で支援を必要とする生徒数に対応することができたことで、きめ細かな支援体制を構築することができた。 ・幼稚園や小学校では、対象児が多いことから支援員ひとりに対応する幼児児童数を3名を超えない範囲で取り組んだことで、成果目標を概ね達成することができた。 ・支援を必要とする幼児児童生徒への支援をきめ細かに行ったことで、障がいのある者とないが共に学ぶ環境づくりの整備が進んだ。						

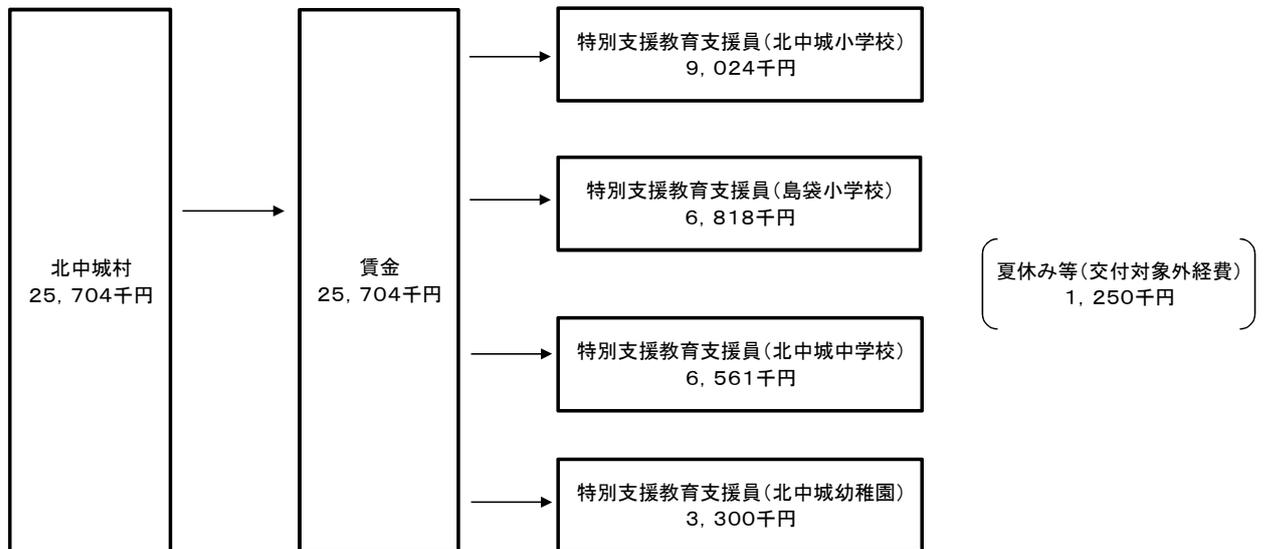
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	支援員については、教育免許所持有者を優先的に採用し、支援内容の質を保つよう努めている。一方で、きめ細かな支援を実践していくためには多くの人員を確保する必要があり、教育免許所持有者に関わらず活用している現状である。支援の質が保てるよう、支援員の人材育成が課題である。	多様な障がいやこれらの支援方法に関する知識を共有し、実践していくため、支援員を対象とした研修会を定期的に開催する必要がある。

今後の取り組み方針

支援員を対象とした研修会を年6回開催し、支援方法の情報共有と個々のスキルアップに取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
26,954	25,704	20,563	5,141	1,250



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は、教育免許所持有者を優先して採用。面接による選考を行い、経験や業務に対する意欲などを判断しているため妥当であると考え。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用及び使途については、事業の目的に即し、支援員ひとりにつき対象児3名以内で配置できたことから適性であったと考え。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-②	学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進 III-4	
事業内容	学習の遅れがちな児童生徒に対し、基礎的・基本的知識や技能の習得に向けた支援を実践することで、幅広く活躍できる人材育成の土台作りを図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A. 計(b+d)		4,881				
			4,236				
			▲ 645				
			0				
			4,236				
	B. 執行済額		3,717				
	うち交付金充当額		2,973				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		87.7%				
予算の状況の説明		勤務日数や個々の賃金の差により、△645千円の補正及び756千円の執行残があるが、概ね計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	学習支援員配置数 (小学校:2人 中学校:1人)	目標	(小学校:2人 中学校:1人)	()	()	()	
		実績	小学校:2人 中学校:1人				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	中学校において支援員の配置に時間を要したものの、2学期開始時には、村立小中学校すべてに支援員を配置することができ、継続的な事業実施が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	全国学力・学習状況調査における平均正答率の向上 (小学校:全国平均との差の縮小(各教科2ポイント以内))	目標	()	(国語:2P以内 算数:2P以内)	()	()	()
		実績		国語:△1.4P 算数:1.3P			
	全国学力・学習状況調査における平均正答率の向上 (中学校:県平均との差の縮小(各教科2ポイント以内))	目標	()	(国語:2P以内 数学:2P以内)	()	()	()
		実績		国語:△0.7P 数学:△2.1P			
進捗状況説明	・小学校においては、全教科で2P以内の目標を達成することができた。特に算数においては全国平均を1.3P上回る結果となっており、継続して指導・学習支援を推進していく。 ・中学校では、数学が2.1P差となり僅かにとどかなかったものの、国語は県平均との差が0.7Pとなっており、概ね達成することができた。						

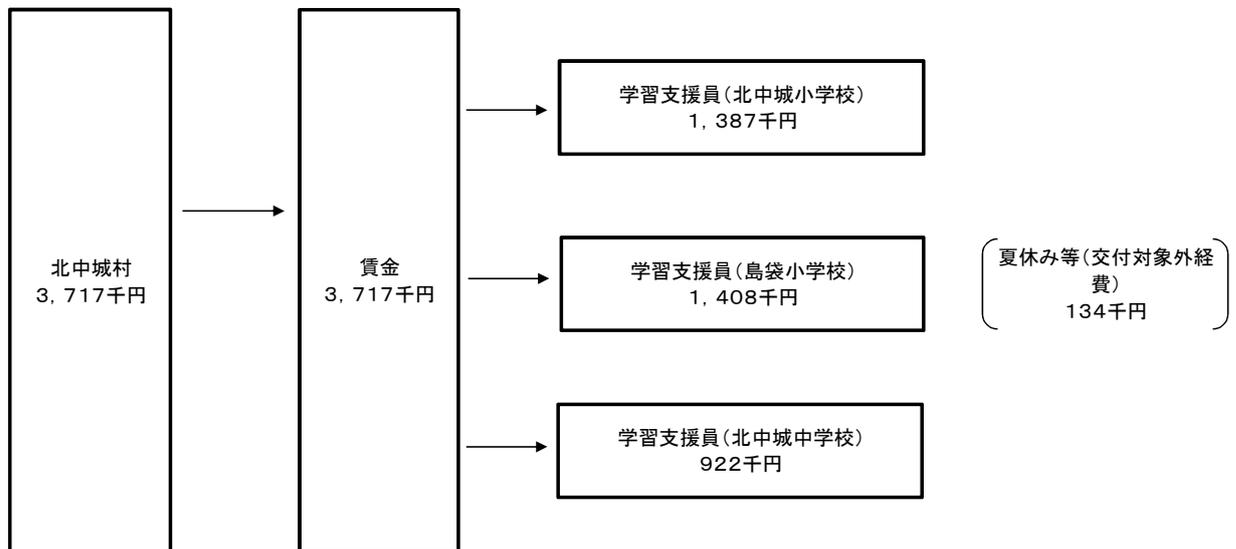
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援を必要とする児童生徒が増える傾向にあり、どのように支援員を活用し、基礎学力の向上に繋げるかが課題である。 ・学習支援を必要とする児童生徒ひとりひとりにあった支援を行わなければならないため、担任や教科担任との情報共有のあり方について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援を必要とする児童生徒に対応するため、支援員の増員について検討する必要がある。 ・学習支援を必要とする児童生徒の担任との意見交換や情報共有の機会を多く設けることで、支援についての確認や状況、支援後の姿容について把握する必要がある。

今後の取り組み方針

- ・全国学力・学習状況調査における平均正答率が、全国平均との差の縮小及び更なる向上を目指し、継続した学習支援員の配置により児童生徒の基礎的知識の習得を図る。
- ・学習支援員の指導力の向上を図るため、研修会を充実させ、また、本務教諭と支援員との意見交換等の場を多く設定する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,851	3,717	2,973	744	134



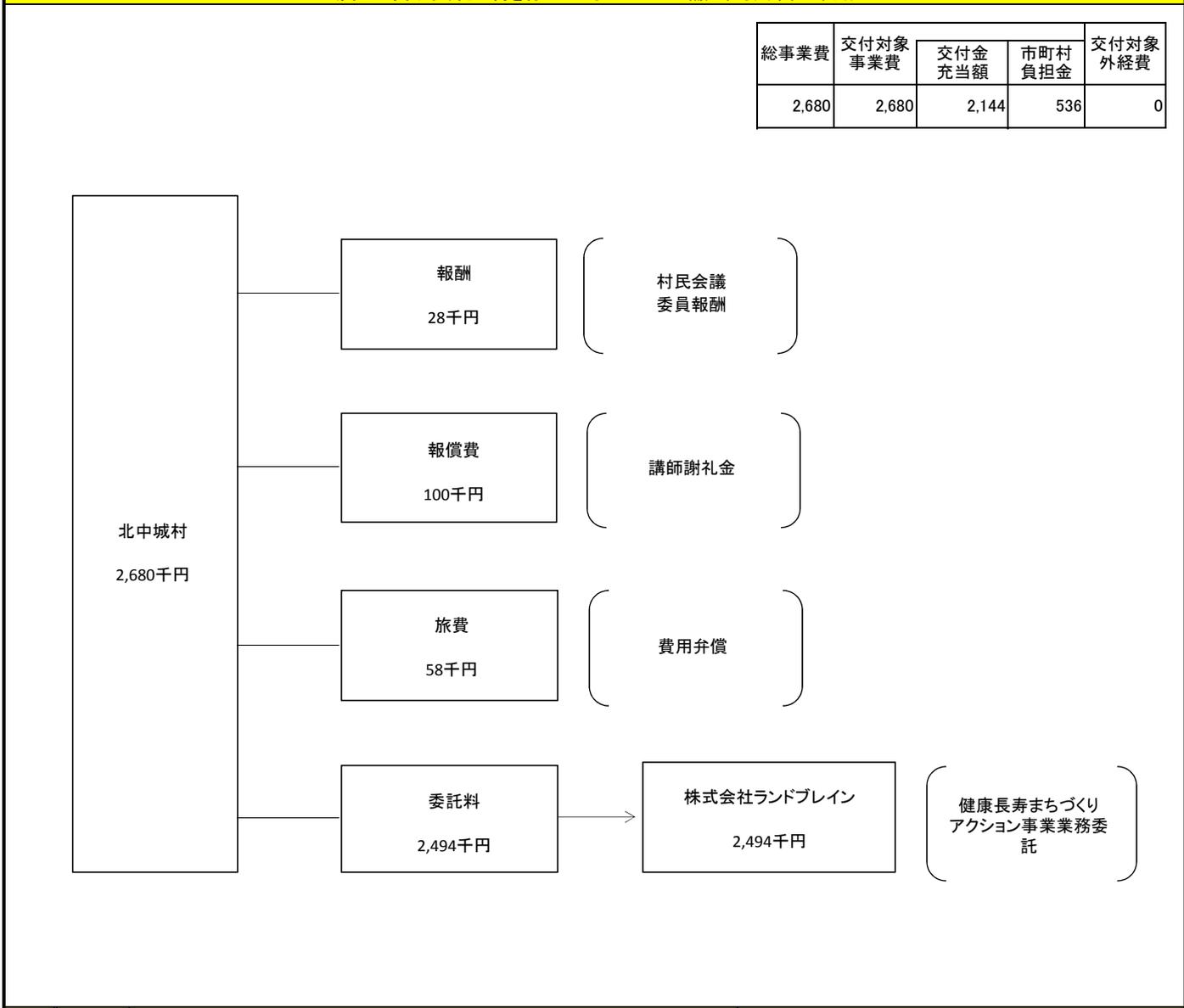
資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○指導員は教員免許を有している者を採用。面接による選考を行い、指導力等を判断しているため妥当であると考え ○予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。 ○費用・使途については、事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-①	健康長寿のまちづくりアクション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-7	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進 Ⅲ-4	
事業内容	本村は平成26年3月、村民一人ひとりの健康づくりを通して「村民の楽しみ・生きがい増」「村民の所得増」「産業振興・観光振興」等、様々な良い効果が出ることを目標とした「北中城村 健康長寿のまちづくり計画」を策定した。本年度においては、「女性長寿日本一のPR事業」や「健康づくり村民会議」を実施するとともに、26年度に策定したアクションプランを念頭に村民の食生活と健康調査を行い健康習慣の啓発に繋げる。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	2,873			
		(b) 予算現額	3,000	2,814			
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 59			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計 (b+d)	3,000	2,814			
	B. 執行済額		2,505	2,680			
	うち交付金充当額		2,004	2,144			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率 (%) (B/A)		83.5%	95.2%			
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。なお、不用額134千円については、村民会議(1回分)に係る委員報酬及び費用弁償の減額によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	健康長寿のまちづくり村民会議の開催(3回)	目標	(村民会議の開催)	(3回)	()	()	
		実績	村民会議の開催	2回			
	大学との共同による調査	目標	(-)	(大学との共同による調査)	()	()	
		実績	-	大学との共同による調査			
	他課との連携事業	目標	(-)	(他課との連携事業)	()	()	
		実績	-	他課との連携事業			
	自治会或いは各種団体への活動説明の実施(4回)	目標	(-)	(4回)	()	()	
		実績	-	4回			
達成状況説明		・健康長寿のまちづくり村民会議は当初計画で3回の予定に対し、実績では2回の開催ではあるが、各種団体と密に連携し情報共有が図れた。 ・琉球大学との栄養調査では、村内小学校(北中城小学校・島袋小学校)3学年(3~5年生)の児童生徒とその保護者を対象に、食と暮らしの調査を実施した。 ・健康保険課と連携して、フードモデルを活用した食育事業を実施した。 ・新日本歩きたくなる道500選に選出された通りを散策するウォークイベントや、北中城村特産の海藻アーサを活用したヘルシー料理教室の開催やヨガイベントを実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	特定健診受診率の向上(前年度より2%)	目標	()	(2%増)	()	()	()
		実績		4.6%増			
	特定保健指導実施率の向上(前年度より5%)	目標	()	(5%増)	()	()	()
		実績		6.8%減			
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明		・特定健診受診率については前年度比5.6%の増加となった。これは地域と連携した事業を実施することで、村民の健康意識の向上に繋がったと考えられる。 ・特定保健指導実施率については前年比6.8%の減少となった。その要因としては、主管課のマンパワー不足の影響が大きいことや、特定健診受診者が増えたことに比例し、保健指導実施対象者の増加も影響していると考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・村内各種団体で構成される北中城村健康づくり村民会議により、意見交換や健康イベントを実施することで、村民の健康意識が向上され、特定健診受診率の増加に繋がったと考えられる。 ・特定健診受診者が増加したことで、病気の早期発見、早期治療が行えることは、国保給付額の縮小に繋がるので、今後も引き続き受診率向上に努める。 ・今後も特定保健指導実施率を向上し、適正な医療を受けることで、疾病の悪化を未然に防ぐことが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、村民の健康づくりの機運を高め、女性長寿日本一の健康長寿村北中城村を維持することが求められる。そのためには、関係機関や庁内の連携が今後も重要となる。 ・多くの村民が参加できるような健康イベントを民間や地域と協働で実施できるネットワークの構築が必要である。

・村内各種団体で構成される北中城村健康づくり村民会議を引き続き実施し、地域の健康課題を共有することで、事業化を推し進めていく。
 ・多くの村民が参加できる健康イベントを定期化することで、村民の健康意識向上に努める。
 ・村民が日常的に体を動かすよう、関係課と連携して取組む。
 ・各種健康診査や村広報誌等を活用し、保健指導対象者などへ健康イベントへの優先的な招待を行い、健康意識向上と特定健診受診率及び特定保健指導実施率の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・受託事業者は随意契約であるが、平成25年度策定の健康長寿のまちづくり基本計画策定に関わった事業者のため、本村の健康状況について熟知していることを勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・予算規模は事業内容に即した規模となっている。 ・費目および用途については事業目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	